

(財)東北亞支石墓研究所 教養叢書 3

世界遺産 高敞支石墓

李榮文

申敬淑

訳 金建洙

世界遺産 高敞支石墓



世界遺産 高敞支石墓

発行日：2010年 12月 30日
発行人：李栄文・申敬淑、訳 金建洙
発行所：高敞郡・(財)東北亜支石墓研究所
企画・編集：(財)東北亜支石墓研究所 文化事業部
全南 和順郡 和順邑 校里 185番地
Tel 061-370-8831 / Fax 061-374-9399
www.idolmen.org

編集デザイン：エンター(062-236-2110)
表紙写真：パク・ソンベ
出力：ビジョンプロセス

※ この本は「2010年世界遺産の管理及び広報事業」支援金(文化財庁、高敞郡)によって製作された。
この本に使用された内容と写真資料は発行元の事前同意なく無断で使用することを禁ずる。

凡/例

1. この本は一般向けの教養書として世界遺産と支石墓への理解を深めるためのものである。
2. この本は巨石文化の宝庫といえる高敞支石墓遺跡の価値とその意味に焦点を合わせた。
3. 支石墓に関する用語は韓国語を原則にし、次のように統一した。
 - ・支石墓の形式-卓子式(北方式)、碁盤式(南方式)、蓋石式、囲石式
 - ・支石墓の構造-上石、支石、蓋石、墓域施設、石室
 - ・支石墓の出土遺物-石剣、石鏃、赤色磨研土器、無文土器
 - ・卓子式はテーブル形の支石墓を言います。
4. この本に収録されている写真の大部分は筆者が撮影したものであるが、一部は図録に掲載された写真を引用し、明記していないものもある。特に支石墓人のくらしに収録された写真は高敞支石墓博物館に展示されている生活の様子と和順支石墓遺跡の先史体験場での体験の様子を使用して理解するうえでの参考資料とした。
5. この本の編集と発刊は東北亜支石墓研究所文化事業部の申敬淑部長、閔惠永、金淑香研究員が分担して企画・編集し、李栄文教授が最終的に監修した。また、高敞郡(高敞支石墓博物館)からは資料の写真提供と編集・校正時、多くの援助を頂いた。

はじめに

人類の文化遺産のなかで支石墓は立石と共に巨石文化を代表するもので、全世界的に分布しています。世界的な分布圏のなかで最も密集分布している韓国の支石墓は世界巨石文化の中心地として改めて注目されています。

支石墓は外形的特徴によって古くから多くの人々の関心と研究の対象となりました。その理由は採石し運搬してそれを墓として使用した青銅器時代人の世界観と石を加工する技術が現在の私たちには驚嘆の対象となるためです。

高敞の支石墓は竹林里、上甲里一帯の約1.8kmの範囲内に447基が密集分布しています。支石墓の規模と形式が多様で、単位面積あたりの密集度が最も高く、原形が比較的よく残っています。支石墓の築造過程が分かる採石場と多様な形態の支石墓から支石墓の発生と変遷過程を研究する重要な資料であり、保存価値が非常に高い遺跡であると言えます。高敞の支石墓は青銅器時代の生活様相、そして東北アジア地域の古代文化を理解するうえで貴重な資料であり、青銅器時代の文化交流、つまり支石墓発生・伝播ルートを想定する際に重要な端緒を与えてくれます。

高敞・和順・江華の支石墓遺跡は稀少性、歴史性そして特殊性など様々な側面から『独特で非常に稀少な古い遺産』と評価され、2000年12月世界遺産に指定されました。全人類が大切に保存すべき世界的な遺産であります。

この本は世界遺産に指定された支石墓遺跡の意味と価値に焦点を合わせています。内容は1・2部に分かれ、第1部は世界巨石文化の中心地であり、単一区域として韓国で最大の群集をなす高敞支石墓遺跡の探訪

コース別案内と説明とともに写真を掲載し参考となるようにしました。

1コースの支石墓は卓子式と碁盤式など多様な形式が共存する様子が分かり、2コースの支石墓では集団の記念物として築造され、人々の協同と結束力を高めるための支石墓を見ることができます。3コースの支石墓は128基の支石墓が密集分布する様子が分かり、支石墓の上石を切り出した採石場は4コースで出会うことができます。5コースは支石墓が群集したり列状配置を見せることが分かり、6コースの支石墓では典型的な卓子式支石墓である道山里支石墓と出会うと共に支石墓の発掘調査と支石墓と関連する説話と伝説も知ることができるよう構成されています。

第2部は支石墓に対する疑問点を文化の謎解きとして解きながら高敞支石墓遺跡を作った支石墓人たちの生活を主題別に調べてみました。地面を掘って建てた竪穴住居が集まってムラを形成し、石を道具として利用して農耕を営み、身分が高い人が青銅器を直接製作・使用した支石墓時代の人々の生活の様子を理解できるようにしました。

支石墓遺跡は私たちの先祖が直接採石し運搬して精魂込めて作った遺産であり、それ自体がひとつの歴史であり大切な資産であります。この本を通して皆様が気軽に訪れ、また訪問したくなる遺跡、世界人が集う文化遺跡地となることを望みます。

2009年 12月 30日

(財)東北亜支石墓研究所長 李栄文

目次

世界遺産 高敞支石墓

I. 巨石文化と韓国の支石墓

- 巨石文化 10
- 支石墓、立石、列石、石像などの多様な姿 12
- ヨーロッパ、アジア、アフリカなど世界各地の分布 16
- 巨石文化と韓国の支石墓 18
- 【世界遺産 和順支石墓遺跡】 21
- 【世界遺産 江華支石墓遺跡】 24

II. 世界遺産 高敞支石墓

- 高敞支石墓 1965年、その価値の発見 28
- 高敞支石墓 2000年、世界遺産になる 30
- 【ユネスコ世界遺産】 32
- 【韓国の世界遺産】 34
- 躍動的な先史遺跡 高敞支石墓を楽しむ6つのコース 36
 - ・1コース 卓子式、碁盤式など多様な形式 38
 - ・2コース 協同と結束力を高めるための記念物 40
 - ・3コース 支石墓の最大集中分布地 42
 - ・4コース 23ヶ所の支石墓採石場 44
 - ・5コース 列状に分布する支石墓 46
 - ・6コース 典型的な卓子式支石墓 48
- 【高敞支石墓の発掘調査】 50
- 【道山里支石墓の物語】 52
- 【北男南女支石墓物語】 53
- 【亀岩物語】 53

III. 韓国支石墓文化15の謎

- 支石墓とは何か 56
- なぜ、石で作ったのだろうか 58
- 誰が作ったのだろうか 59
- 支石墓ってどんな形? 60
- 支石墓はどのような構造を持つのか 64
- どんな遺物が出土するのか 66
- なぜ遺物を納めたのだろうか 71
- どのように作ったのだろうか 72
- 築造規模はどれくらいだったのだろうか 75
- 墓としてのみ使われたのだろうか 76
- 支配者のみが支石墓に埋葬されたのだろうか 78
- 支石墓から発見された骨は何を意味するのか 79
- 支石墓はいつ築造されたのだろうか 81
- 韓国の支石墓はいつ出現したのだろうか 82
- 支石墓はなぜ消滅したのだろうか 83

IV. 支石墓人たちの暮らし

- ムラの話 86
- 農耕の話 88
- 農耕具の話 89
- 狩猟の話 90
- 土器の話 92
- 石器の話 94
- 青銅器の話 96
- 心を読む 97

V. 行ってみたい高敞の文化遺跡

- 韓国最初の支石墓博物館 100
- 先史時代の支石墓遺跡 102
- 歴史時代の文化遺跡 105

I

巨石文化と 韓国の支石墓



世界遺産高敞支石墓は先史人類が残した巨石文化の1つである。
韓国には高敞支石墓など3万基以上の支石墓が分布している。

巨石文化と韓国の支石墓

巨石文化

巨石に祈願・祭儀の
意味が込められた
先史人類の痕跡



◎ 巨石文化は自然石あるいは加工した石で構造物を築造して崇拝の対象物や墓として利用した文化を言います。巨石(Megalith)とはひとつの構造物や記念物あるいはその一部として使用された石を示し、巨石物(Megalithic)は人間行為によって作られた直接的な対象物、つまり石で作られた構造物を意味します。

◎ 巨石文化が石を利用した構造物を総称するならば、巨石を利用した支石墓や立石がこれに該当し小さな石を利用した石棺墓や積石石棺墓もこれに含まれます。一般的に世界の巨石文化は先史時代に属する記念物や巨石の墓に限って呼ばれています。石を利用して崇拝の対象物や墓を作った巨石文化は太陽崇拝と関連させたり、大洋の近くに分布することから大洋の航海と関連づけて海洋文化の所産とみる見解もあります。

◎ 巨石記念物は豊作と収穫物について天に感謝する気持ちから建てられた記念物、周辺集団との戦いでの戦勝を記念するために作られた凱旋的な記念物、尊敬する指導者を追慕するための巨石碑として作られた場合があります。これらは自然の様々な現象と人間の生死を祈願したもので歓喜と恐怖の対象として表現したものとと言えます。

◎ 巨石建造物は祭儀や宗教的、社会的な目的から築造されたり墓あるいは記念物として造営されました。したがって、巨石は地域によって規模や構造、形態が多様にあられ、このような現象は各地域の社会的な伝統と独特な文化的背景の下で築造されたことを意味します。

支石墓、立石、列石、石像などの多様な姿

“支石墓は地上あるいは地下に石室を作り、その上を巨大な覆石で覆ったもので巨石文化を代表する遺跡です。”

● 支石墓

ヨーロッパでは新石器時代から石を使った巨石記念物が作られはじめ、アジアなど他地域では青銅器時代や鉄器時代に支石墓が作られました。

支石墓の形態は地域によって違いがありますが、テーブル形を呈するものは世界的に見られる共通点です。巨大な上石の下に4個ほどの支石がある碁盤式は韓国でのみ見られる形式です。韓国をはじめアジア地域では1つの石室に1つの蓋石があることが特徴であり、西ヨーロッパでは多数の支石をつなげてその上を数枚の蓋石が覆うトンネル形(廊下型・通路型)支石墓が特徴です。



・フランス カルナック 支石墓
(トンネル型支石墓)

“立石は支石墓と共に巨石文化を代表するもので、1つの石を垂直に立てたものをいいます。”



・羅州 南平 東舎里 立石

● 立石

韓国の村の入口に見られるものです。立石の起源は一般的に生産と豊饒を祈願する男根崇拜と関連するものと把握されています。単独で立地する場合もありますが、フランスやイギリスのように数十基から数千基が列をなして分布していたり、多重の同心円状に立地するものもあります。生産と豊饒を象徴する男根信仰のほか、日の出と関連した太陽崇拜、墓の前に立てられた墓標石の機能、祭壇の機能、天文学な機能と見る場合もあります。

“列石は立石が一行や複数の列で平行に立てられたものをいいます。”

● 列石

フランスのブルターニュ地方の列石が代表的であり、韓国では発見されていません。フランスのカルナック列石は小さいものが60cm、最も大きいものは6mにもなり、3000個以上の列石が3つの区域に分けられ約4km



・フランス ブルターニュ地方の列石

にかけて東西に伸びています。このような列石は祭祀と関連したり、夏至や冬至の儀礼行為と関連するものと見たり、1日の時間や季節を推定する機能として見る見解などがあります。



・イギリス ストーンヘンジの環状列石

“環状列石は立石を円形に配列した形態で、列または二重に配列されたものがあります。”

● 環状列石

代表的なものがイギリスのストーンヘンジ(Stone Henge)であり、そこに使われた青石は 210km離れたところから運ばれてきた巨石で、30個ほどの石を円形に立てその上面をつないだものです。そのなかには巨石を2つ立て、その上面に長大石を載せた三石塔5個をU字形に配列しています。この石の重量は立てられた石が30~40トン、上面に載っている石は6~10トンになると言います。この環状列石の周囲には長さ1.3kmの溝と土手が円形に巡っており、最小247個の立石があったと推定されています。このような環状列石は葬礼と関連する特殊な儀式場とする見解と夏至時の日の出と関連させて天体観測の機能を持つと見る見解があります。

“石像は石に人の顔などの形状を表現して立てたものを言います。”

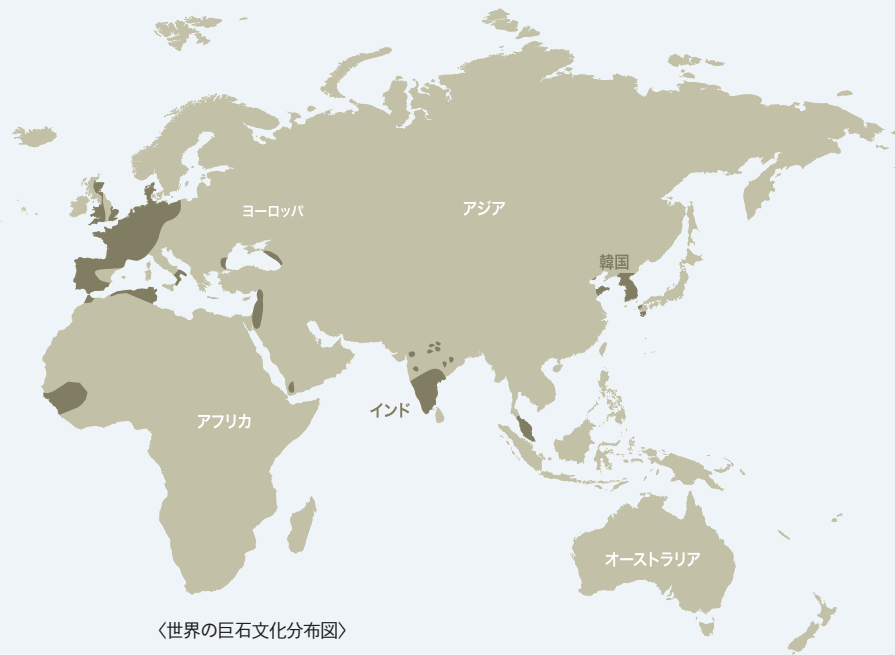
● 石像

韓国でよく見られるチャンスン(長丞)や済州道のトルハルバン、墓の前に立てられた文武人石のような形態を言います。石像は様々な国から発見されており南太平洋に位置するイースター島の石像が代表的です。この島は南アメリカの最も近い陸地から3200kmも離れている孤島の海岸に200個の石像が海に向かって立てられており、人の顔が彫刻されたもので雄壮で堂々たる姿をしています。この石像のなかには高さが最高10m以上で重さが82トンにもなる石像があり、‘イースター島の謎’と呼ばれています。



・チリ イースター島のモアイ像

ヨーロッパ、アジア、アフリカなど世界各地の分布



〈世界の巨石文化分布図〉

支石墓をはじめとした巨石文化の分布は北ヨーロッパ、西ヨーロッパ、地中海の沿岸地域、インド、東南アジア、東北アジア地域で、ユーラシア大陸を囲んでほぼ世界的な分布を見せています。巨石文化は全て大西洋東岸に沿って長く集中分布しています。北ヨーロッパの支石墓はバルト海沿岸のスウェーデン南部からデンマーク、オランダの北部、ドイツなどで発見されています。西ヨーロッパの支石墓と巨石文化はフランスがその中心であり、南ではポルトガルとスペイン、西側ではイギリスとアイルランドに至ります。



地中海沿岸の巨石文化はコルシカとサルデーニャ島、フランス南部のプロヴァンス地域、イタリアの東南部半島、アフリカ北部のアルジェリア、地中海東岸のシリアなどに巨石文化が存在しています。そして、黒海沿岸の支石墓はロシアのコーカサス地域に集中分布しています。アジアではインド、インドネシア、ベトナム、台湾、中国、日本そして韓国など主にインド洋と太平洋近隣に位置する地域から発見されています。

東北アジア地域では韓国、日本の九州西北部地域、中国の浙江省と遼寧省地域に分布しています。中国の支石墓は浙江省に50基、遼寧省に700基が分布しています。日本の支石墓は韓国に近い九州地方の長崎、佐賀、福岡県に集中しており、600基ほどと推定されています。日本の支石墓は韓国のものとは異なり、規模が2~3m前後であり、小さなものは1m前後と全体的には非常に小型であることが特徴です。卓子式は存在せず小型上石の下に支石を置いた碁盤式縮小型が多く見られます。

巨石文化と韓国の支石墓

韓国の支石墓



全国的に3万基余り
湖南地域に2万基余り

〈韓国における支石墓の分布図〉

● 韓国には3万基以上の支石墓が分布しています。主に西海岸地域を沿って集中的に密集しており、全北の高敞を含む湖南地方が最大の密集分布圏を形成しています。その次は平壤を中心とした大同江流域であり、洛東江流域、漢江流域、忠南の西海岸地域などにも密集分布しています。

● ヨーロッパの巨石文化は55000基余りと言われていますが、これらは立石、列石、環状列石などを含めた数であり支石墓は多くありません。比較的巨石の墓が多いアイルランドが1500基ほど、ロシアのコーカサス地域が2400基ほどであることを考えると単一面積で最も多く分布している地域は韓国です。その中でも湖南地方に多く密集しており、この地方から発見されたものだけで2万基にも達し、世界でも類例がない支石墓の密集地域として知られています。

● 韓国の支石墓の特徴は密集と群集性、多様な外形、巨大な卓子式と碁盤式支石墓、多様な石室、磨製石剣の副葬などが挙げられます。この中でも大規模な碁盤式支石墓と磨製石剣の副葬は他地域の支石墓では見られない特徴です。

世界遺産 高敞・和順・江華の支石墓



・高敞支石墓遺跡



・和順支石墓遺跡



・江華支石墓遺跡

◎ 人類の文化遺産の中で支石墓は世界的に広い範囲で分布しており、築造当時の様々な社会様相を反映した遺跡の1つです。世界のどの地域より集中分布している韓国の支石墓は世界の支石墓の中心地と解釈され、他地域とは異なる独特な特徴を持っています。

◎ その中で高敞・和順・江華の支石墓は稀少性、歴史性そして特殊性などの様々な側面から『独特で非常に稀少な古い遺産』と評価され、2000年12月国際連合教育科学文化機構(UNESCO)によって世界遺産に登録されました。韓国の支石墓遺跡が『優れた普遍的な価値』を持つ人類文化遺産に指定され管理されている事実は、それだけ重要な意味を持つ世界遺産的な価値が認められているためです。

【世界遺産 和順支石墓遺跡】

“宝剣峠の両側の溪谷に沿って596基の支石墓が密集分布し、支石墓の上石が切り出された採石場と様々な形式の支石墓、特に最近発見され周辺の環境と保存状態が良好な自然のなかの支石墓遺跡です。”

自然のなかの和順支石墓

世界遺産和順支石墓遺跡は1995年12月に木浦大学の李栄文教授によって発見され学会に報告された遺跡で、全羅南道和順郡道谷面孝山里と春陽面大薪里をつなぐ宝剣峠の両側の溪谷に沿って596基の支石墓が密集分布しています。発見当時、林によって支石墓が隠れており比較的原状が保たれており、支石墓の保存状態も非常に良好でした。周辺の環境は栄山江の支流で広い平野がある砥石川とは約2kmほど離れた溪谷に支石墓があり、近隣の集落内だけではなく周辺の平地と丘陵にも多くの支石墓が分布しています。

和順支石墓の最大の特徴は支石墓の築造過程が分かる採石場にあります。上石を採石する場所が支石墓上方の山麓から発見されています。採石場とその周囲には支石墓の上石を採石した痕跡と採石中の石材などが残っており、その下方では様々な形態の支石墓を見ることができ、支石墓の築造に至る一連の過程をうかがい知ることができます。この他に人力では到底築造できないような巨大碁盤式支石墓と聖域化された支石墓が多数分布している点、様々な形態の支石墓が一カ所に見れる教育の場であるなど重要な特徴があります。



・和順 カムテバウィ採石場



・和順 砥石支石墓



・和順 官庁岩支石墓群

【世界遺産 和順支石墓遺跡】

発掘された和順支石墓

春陽面大薪里池洞村の入り口に位置する大薪里支石墓では35基の支石墓が発掘調査されました。重要な特徴は全体的に計画された墓域を形成し、多様な形態の石室と敷石で連結して対になった支石墓が多い点です。石室内の副葬品は紡錘車(2個)と赤色磨研土器、無文土器片があり、石室の周囲から石鏃、石鏟、有段石斧、石剣片、碾石と石棒、多量の無文土器片、赤色磨研土器片などが出土しました。大薪里支石墓の石室から出土した木炭の放射性炭素年代が、紀元前555年(補正年代は紀元前720~390年)と土器の熱ルミネッセンス年代測定では紀元前770年(補正年代は紀元前1000~500年)と測定され、紀元前500~800年の間に支石墓が築造されたことを証明しています。



・和順 大薪里で発掘された石室



・和順 支石墓遺跡 出土遺物



・風水上の猫の位置にあるゲェバウィ支石墓



・月のように丸いタルバウィ支石墓



・*麻姑婆の伝説が残るピンメバウィ支石墓

和順支石墓に伝わる物語

和順支石墓には支石墓に対する別称と伝説があります。風水地理と関連するゲェバウィ伝説、官庁の仕事をしたため官庁岩支石墓、月のように丸いことから月岩支石墓、庭のように広いという意味で庭岩支石墓など様々な物語りが伝わっています。そのなかでピンメバウィ支石墓は麻姑婆が**チマに石を包んでウンジュ村に行く途中、チマが破れて置いていった石をピンメバウィとし、ピンメバウィの上には穴があり、この穴は麻姑婆がおしっこをしてできたと言います。このことから樵夫や峠を往来する人々が石を投げてその穴にはいると息子が誕生し、入らないと娘が誕生するという伝説があります。

* 麻姑婆：伝説に出てくる年奇りの仙女

** チマ：韓国伝統のスカート

【世界遺産 江華支石墓遺跡】

“南韓最大の卓子式支石墓である江華支石墓は高麗山を中心とし富近里、三巨里、古川里、鰲上里、橋山里など5つの地域に散らばって分布し、平地より山麓と山の頂上に分布することが特徴です。”

高麗山の北側山麓に127基が散在

江華支石墓は仁川広域市江華郡河帖面富近里、三巨里、古川里、鰲上里、橋山里に位置しています。支石墓は主に高麗山の北側山麓に127基の支石墓が分布し、群集を成しているというより散在しています。ここは漢江の入り口の島で歴史的に重要な地域であり支石墓も古くから知られています。



・江華 橋山里支石墓

世界遺産に指定された支石墓は保存状態が良好な富近里14基、三巨里9基、古川里20基、鰲上里12基、橋山里13基、大山里1基、富近里1基などで70基が登録されています。江華支石墓は山麓、丘陵、平地、尾根など多様な場所に立地しています。橋山里と古川里の支石墓は尾根にあり、富近里と三巨里は平地に分布しています。特に有名な富近里の卓子式支石墓は高麗山の北側山麓に形成された海拔20~30mの台地に位置し、支石墓の北側付近には海に流れるクムゴク川があります。



・江華 富近里支石墓

南韓最大の卓子式支石墓 - 富近里支石墓

江華支石墓として知られている富近里支石墓(史跡137号)は小学校の教科書に収録されており、私たちにはお馴染みの支石墓です。河帖面富近里317番地の江華支石墓公園内に位置し、古く1964年に史跡に指定され保護・管理されています。

この支石墓の上石の大きさは長軸640cm、短軸523cm、幅112cmであり、地上からの高さは245cmです。大型の板石形上石の中央部の下には2枚の大型支石が支えており、現在は左右の支石のみ残り石室内部がまるで長い通路のようになっています。支石は東側に30°ほど傾いており、上石はほぼ地面から水平に載せられています。上石の岩石はミグマタイト質の片磨岩で、左側の支石は雲母片岩、右側の支石は花崗岩質の片磨岩です。

この支石墓は台地上に巨大な上石が支石によって雄壮に見えたり周辺から見易い場所に位置することから墓としての機能より築造集団を象徴する記念物や祭壇としての機能が強いと言えます。



・江華 富近里支石墓

【世界遺産 江華支石墓遺跡】

整備・復元された鰲上里支石墓

江華内可面にある鰲上里支石墓は発掘調査後、12基が整備・復元されました。支石墓群は高麗山西側の落照峰の端部、海拔76m地点の小さな山に位置し、この中で最も大きく一方に片寄って位置する支石墓は地方記念物46号に指定された'内可支石墓'です。支石墓は支石の高さが50cm前後で上石の大きさに比べて支石墓の全体の高さが低く、支石と閉塞石で四方の壁を防ぐ形態を呈しています。2000年に鮮文大学校が行った発掘調査の結果、石剣、石鏃、石斧、碾石など多様な石器類と赤色磨研土器などの遺物が出土しました。



・江華 鰲上里支石墓

山の頂上に位置する古川里支石墓

古川里支石墓群は高麗山の頂上から積石寺の落照峰につながる稜線の西側頂上部に位置しますがここは海拔300~350m地点であり、現在まで知られている支石墓の中で最も高い場所に位置しています。支石墓は3群に20基の支石墓が分かれて群集し、そのほとんどは高さが低い卓子式支石墓です。山の頂上部や山斜面に位置し、上石が斜めに傾いたり落葉と土によって埋没しています。



・江華 古川里支石墓

II

世界遺産 高敞支石墓



高敞支石墓は1.8kmの範囲内に447基の支石墓が密集している。このように高敞は世界的に見ても支石墓が密集分布する地域であり、代表的な巨石文化の宝庫である。

高敞支石墓

1965年、その価値の発見

表. 全北地域における支石墓分布現況

区分	高敞	群山	金堤	南原	茂朱	扶安	淳昌	全州	益山	任実	長水	井邑	鎭安	計
群集数	205	11	3	27	8	17	28	14	4	24	40	20	22	423
分布数	1,665	26	11	84	20	80	118	79	9	143	150	82	165	2,632
比率	63.3%	1.0%	0.4%	3.2%	0.8%	3.0%	4.5%	3.0%	0.3%	5.4%	5.7%	3.1%	6.3%	100%

(2007、高敞竹林里災害支石墓発掘調査報告書から引用)

◎ 支石墓は青銅器時代の代表的な墓の様式であり、韓国におおよそ3万基以上分布していることが知られており、その中でも全南と全北を含む韓半島西南海岸地域に密集分布しています。

◎ 全羅北道に分布する支石墓はこれまで精密な発掘調査と地表調査が行われ、約2600基以上の支石墓が分布していることが知られています。なかでも高敞地域は全北地域の支石墓の63%に当たる1665基の支石墓が分布しており、単一区域としては韓国で最も高い密集分布を見せることで有名です。

◎ 高敞地域の支石墓は2003年時点で205ヶ所の群集地域に1665基の支石墓が分布していることが確認されましたが¹⁾、その後、2005年刊行の文化遺跡分布地図²⁾では1327基の支石墓が調査され、2009年の群山大学校博物館が調査した資料³⁾によると、世界遺産に指定された高敞の支石墓を除いた174ヶ所の群集地域に1124基の存在が報告されています。これまでの資料によると、高敞地域の支石墓は185ヶ所の群集地域に1600基以上が確認されています。

◎ 高敞地域の支石墓に対する発掘調査は、1965年に国立博物館によって行われた上甲里支石墓3基に対する調査から始まり、1983年には高敞雅山ダムの建設に伴って龍溪里と雲谷里にかけて22基の支石墓が調査されました。これらは現在は円光大学校博物館の庭園に移転復元されています。その後、1992年には高敞の支石墓遺跡に対する学術研究を目的として竹林里2地区3群に所在16基の支石墓、1999年には西海岸高速道路建設に伴って竹林里と礼智里支石墓が発掘調査されました。2003年には台風によって竹林里2419号支石墓が倒壊、2433号支石墓は流水によって倒壊する危険性があったため災害支石墓と命名し、2004年に円光大学校博物館によって発掘調査されました。2004年には高敞-潭陽間高速道路建設のため、芙谷里で20余基の支石墓が発掘調査されました。

1) 김선기, 2003, 「전북지방 지석묘의 현황과 고창 지석묘의 특징」 『지석묘조사 의 새로운 성과』, 제30회 한국상고사학회 학술대회, 한국상고사학회
 2) 원광대학교 마한백제문화연구소, 2005, 「문화유적분포지도-고창군」, 고창군
 3) 군산대학교 박물관, 2009, 「고창군의 지석묘」, 고창군
 방민아외, 2009, 「고창군 지석묘 분포현황」 『호남지역 문화유적 발굴성과 2008·2009』, 호남고고학회



・高敞支石墓遺跡の全景

高敞支石墓 2000年、世界遺産になる

◎ 高敞支石墓は竹林里と上甲里、道山里一帯に群集して分布しています。ソルトウル峰と中峰の南斜面に等高線方向に沿って位置し、目前には高敞川が流れています。

◎ 竹林里一帯の442基と道山里支石墓5基、計447基の支石墓が築造されていますが、このような密集分布は世界的にも珍しいものです。また、数の多さだけでなく、卓子式と変形卓子式、碁盤式、蓋石式など多

様な形式の支石墓が混在しており、支石墓の発生と展開およびその性格を考えるうえで重要な資料となっています。

◎ 高敞支石墓遺跡は単一区域としては韓国で最大の群集をなすだけでなく、多様な形式の支石墓が一カ所に分布し、支石墓の築造過程を物語る採石場の存在など東北アジアにおける支石墓の変遷史を究明するうえで重要な資料となっています。このことから世界遺産委員会では登載基準第3項(独特かつ非常に古い遺産)を適用し、世界遺産としての価値を認めました。

【ユネスコ世界遺産】

人類の大切な文化および自然遺産の保護

人類文明と自然史において非常に重要な資産である世界遺産は全人類が共同で保存し、それを子孫に伝え残す世界的に重要な価値を持つ遺産です。
世界遺産は世界遺産、人類無形文化遺産、世界記録遺産などに分けられます。

世界遺産

世界遺産は文化遺産、自然遺産、複合遺産に分けて保護・管理されており、世界遺産の登録件数は2009年10月現在、148ヶ国890件です。このなかで文化遺産は689件(全体遺産の77%)、自然遺産は176件(全体遺産の20%)、複合遺産は25件(全体遺産の3%)あり、危機に瀕している世界遺産は31件が報告されています。

▶ **文化遺産**: 動かすことができない建築物、城郭、塔といった不動産文化財が対象となります。エジプトのヌビア遺跡、ピラミッド、ギリシアのアクロポリス、インダス文明の発生地であるモヘンジョダロ、中国の万里の長城、先史時代の遺跡であるアルタミラ洞窟などが含まれます。韓国では石窟庵と仏国寺(1995)、宗廟(1995)、海印寺の蔵経板(1995)、昌徳宮(1997)、水原の華城(1997)、慶州の歴史遺跡地区(2000)、高敞・和順・江華の支石墓遺跡(2000)、朝鮮王陵(2009)など8件が指定されています。

▶ **自然遺産**: 生物学的な生成物からなる自然の形態を含んだもので、エベレスト山とアメリカのグランドキャニオン、アフリカの広大な野生公園、ダーウィンが進化論をひらめいたエクアドルのガラパゴス島などがあります。韓国では済州の火山島と溶岩洞窟(2007)があります。

▶ **複合遺産**: 文化遺産と自然遺産を兼ね備えた文化遺産をいい、ギリシアのアトス山と中国の泰山、ベルーのマチュピチュ歴史保護地区などが該当します。

人類無形文化遺産

世界無形文化遺産とは国際化時代を迎えて消滅危機に瀕している文化遺産の保存と再生を目的に、人間の創造的な才能の傑作として優れた価値を持つ言語、文学、音楽、踊り、遊戯、神話、儀式、習慣、工芸などを選定する制度です。世界の77ヶ国166件(2009年11月現在)が人類無形遺産に指定・保護管理されており、韓国の人類無形文化遺産の代表リストには宗廟祭礼及び宗廟祭礼楽(2001年)、パンソリ(2003年)、江陵の端午祭(2005年)、カンガンスルレ(2009年)、男寺党遊戯(2009年)、霊山嶺(2009年)、済州のチルモリダンヨンドンクック(2009年)、処容舞(2009年)の計8件があります。

世界記録遺産


世界記録遺産は各国の図書館、文書庫などで保管されている世界的な価値を持つ貴重な所蔵文書として人類の記録物を保存し、新技術を通してできるだけ多くの人々が記録遺産に接するできるようにするため、一定の審査を通して登録する制度です。世界記録遺産には85ヶ国218件の遺産が登録されており、韓国では朝鮮王朝実録(1997)、訓民正音解例本(1997)、仏祖直指心体要節(2001)、承政院日記(2001)、朝鮮王朝儀軌(2007)、海印寺の八王大蔵経版及び諸経版(2007)、東医宝監(2009)など計7件が登録されています。

世界遺産の登録基準及び効果

世界遺産に登録されるためには一定の基準を有する必要があります。つまり、遺産の真正性(authenticity)、その価値の卓越性及び該当国家の管理能力が国際的に認められなければなりません。世界遺産に登録されると、文化財の毀損防止と永久保存のためユネスコの技術諮問と財政支援を受けることができます。そして、私たちの遺産の優秀性と独創性が国際的に認められ、国内外に知られることで国際的な観光名所にもなります。文化遺産に対する具体的な登録基準は以下の通りです。

項目	登録基準	登録事例
I	人類の創造的才能を表す傑作である。	オーストラリア オペラハウス
II	ある期間、あるいは世界のある文化圏において、建築物、技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展における人類の価値の重要な交流を示していること。	ロシア コローメンスコエ聖堂
III	現存する、あるいはすでに消滅した文化的伝統や文明に関する独特な、あるいは稀な証拠を示していること。	タイ アユタヤ遺跡
IV	人類の歴史の重要な段階を物語る建築様式、あるいは建築的または技術的な集合体または景観に関する優れた見本であること。	宗廟
V	ある文化(または複数の文化)を特徴づけるような人類の伝統的集落や土地・海洋利用、あるいは人類と環境の相互作用を示す優れた例であること。特に抗しきれない歴史の流れによってその存続が危うくなっている場合。	リビア カダミス旧市街
VI	顕著で普遍的な価値をもつ出来事、生きた伝統、思想、信仰、芸術的作品、あるいは文学的作品と直接または明白な関連があること(ただし、この基準は他の基準とあわせて用いられることが望ましい)。	日本 広島原爆ドーム

* すべての文化遺産は真正性(authenticity; 材質、技法などで本来の価値を保有)が必要
完全性(integrity): 遺産の価値を示す十分な諸般の要素を保有
保護および管理体系: 法的、行政的保護制度、緩衝地域(buffer zone)の設定など



ロゴマーク
ユネスコが人類の大切な文化及び自然遺産を保護するため、1978年に作ったロゴマークで中央の四角形は人間をあらわし、外郭の円は自然を意味します。互いにつながっている四角形と円は、人間が作り出した文化と自然は互いに離れることのできない不可分の関係にあることをあらわしています。

【韓国の世界遺産】

韓国は1988年『世界文化及び自然遺産の保護協約』に加入し、1995年12月、ベルリンで開催された世界遺産委員会第19次会議で慶州の石窟庵と仏国寺、宗廟、海印寺蔵経板殿、第21次会議(1997、ナポリ)では水原の華城と昌徳宮、2000年オーストラリアのケインズでは慶州歴史地区と高敞・和順・江華の支石墓遺跡、2009年6月スペインのセビリアで開かれた世界遺産委員会では朝鮮王陵が追加され、計8ヶ所の世界文化遺産が登録されています。

そして、2007年7月ニュージーランドで開かれた第31次世界遺産委員会で済州の火山島と溶岩洞窟が韓国で最初の世界自然遺産に登録されました。また、2004年には高句麗古墳が北朝鮮で最初の世界遺産に登録されました。

2009年時点で世界遺産の登録件数は890件に増加し、韓国の三年三城、公州の武寧王陵、康津の青磁窯跡、安東の河回村などは世界遺産の暫定リストに上がっています。



▶ **石窟庵と仏国寺(1995)** 統一新羅時代の仏教芸術の神髄である石窟庵と仏教教理が寺刹建築を通して見事に表現された独特の建築美を誇る仏国寺は、登録基準第1項と第4項が適用され世界遺産に指定されました。



▶ **宗廟(1995)** 朝鮮王朝の歴代の王と王妃の神位を奉安している宗廟は朝鮮時代の代表的な建造物ですが、16世紀以来の原形が保存されており、諸王を称える儒教的な祠堂の代表であることから、登録基準第4項が適用され世界遺産的な価値が認められました。



▶ **海印寺の蔵経板殿(1995)** 海印寺の蔵経板殿は大蔵経の腐食を防ぎ、完全に保存するため15世紀頃に建てられた建築物であり、保存科学の知恵を見せる最も特徴的な事例の建築様式を持つことから世界遺産的な価値が認められました。



▶ **昌徳宮(1997)** 朝鮮王朝の離宮として最も韓国的な宮廷の姿を見せています。東アジアの宮殿建築史において非定型的な造形美を見せる代表的な宮として、周辺の自然環境と完璧な調和と卓越した配置が評価され、世界遺産に登録されました。



▶ **水原の華城(1997)** 東洋と西洋の軍事施設理論をうまく整合させた独特な城郭として優れた防御機能を持ち、最も科学的で合理的かつ実用的な構造を持つ東洋城郭の白眉であるといえます。



▶ **慶州歴史遺跡地区(2000)** 新羅の歴史をひと目で把握できる様々な遺産が散在している総合歴史地区として南山地区、月城地区、大陵苑地区、山城地区など5つの地区に分けられています。多くの王陵と城郭、離宮などが新羅王室と政治、社会的にリンクするたぐいまれな遺跡としての重要性を持っています。



▶ **高敞・和順・江華の支石墓遺跡(2000)** 支石墓は先史時代の墓のあとと共に巨石記念物の1つであり、東北アジアに主に分布していますが、その中でも高敞・和順・江華の支石墓遺跡は密集度と多様な形式、採石場など韓国の支石墓の起源と性格を究明する重要な資料であると認められています。



▶ **朝鮮王陵(2009)** 朝鮮王陵は519年続いた朝鮮王朝の歴代王たちの墓です。歴代王朝の王陵の内、保存状態が最も良好であり、王と王妃の墓が共に残っています。特に、王室の葬礼と祭礼をうかがい知ることができ、国朝五礼儀といった詳細な記録が後代に伝わっており朝鮮時代の王室文化を見事に照らし出す文化財であると評価されています。

躍動的な先史遺跡 高敞支石墓を楽しむ 6つのコース



◎ 支石墓は高敞の竹林里と上甲里一帯に分布し、ソントウル峰と中峰の南側麓に群集しながら等高線に沿って2~3の列をなしています。このような配置は遺跡の前を流れる高敞川の方向と一致します。

◎ 高敞支石墓の最大の特徴はまず、1.8kmの範囲内に447基の支石墓が密集している点です。1コースに53基、2コースに41基、3コースに128基、5コースに220基、6コースに5基が狭い範囲内に密集分布しています。このような分布は世界的に見ても最も稠密な分布をなすもので、韓国の代表的な巨石文化の宝庫であるといえます。

◎ 次に卓子式と碁盤式、蓋石式など多様な形態の支石墓が一ヶ所に分布している点です。特に、道山里の卓子式支石墓は北朝鮮や遼寧地域の支石墓のように平らな上石を持つ形式であり、1コースの卓子式支石墓は地上に露出している石室が低く、上石が厚くなって典型的な卓子式から変化した形態を見せています。高敞支石墓の大部分は支石のある碁盤式支石墓で、上石が立体化あるいは巨石化する様相を見せています。また、柱状の支石を持つ碁盤式支石墓は上石が雄壮かつ人為的な印象を与えるもので、高敞支石墓の特徴的な要素の1つです。

◎ 高敞支石墓遺跡では無文土器片が発見され、地表面からは磨製石剣片が回収されていますが、代表的な支石墓の副葬遺物はまだ発見されていません。今後、支石墓の発掘調査がさらに進めば遺物が出土する可能性があります。近年では災害支石墓のそばの上石がない石室から円形粘土帯土器が副葬された例があります。

◎ 高敞支石墓遺跡は一地域に数百基以上の支石墓が密集分布し、多様な形式の支石墓が共存していることから支石墓の形成と発展過程を究明できる重要な遺跡であり、ヨーロッパと中国、日本の支石墓とは比較できない独特な特徴を持った遺産であるため、世界遺産に指定されたのです。



・1コース 支石墓全景

1コース

卓子式、碁盤式など多様な形式

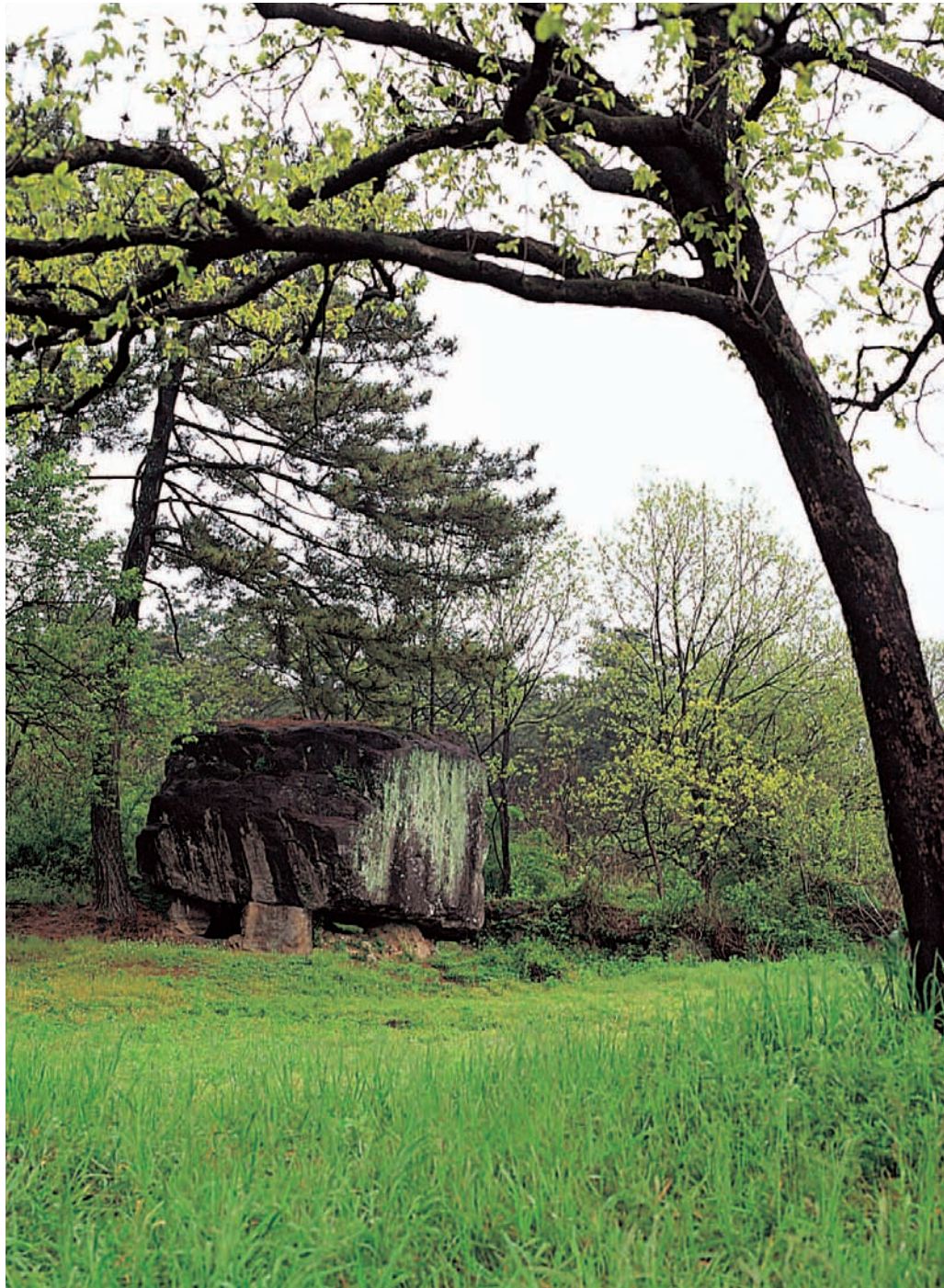
変形卓子式、典型的な碁盤式など53基が分布

1コースの支石墓は中峰の南側斜面部に位置し、卓子式1基、碁盤式12基、蓋石式28基、形式不明の12基など計53基の支石墓が分布している。2509号に見られる卓子式支石墓は変形卓子式の形態を呈し上石の長さ340cm、高さ150cmで、外形的な形態は碁盤式支石墓に見えるように立体化したものです。しかし、下部構造は長さ220cm、高さ70cmの板石2枚が80cmの間隔を置いて平行で立てられた変形した形態をなしています。これとは異なり、2513号支石墓は5個の支石を持つ典型的な碁盤式支石墓です。上石を支える支石は上石を直接支えつつ下部構造である石室の破壊を防ぐと共に上石をさらに雄壮に見せる役割を果たします。この他に地下に石室を作り、そのすぐ上に上石を載せた蓋石式支石墓も卓子式、碁盤式の支石墓と共に分布しています。

このように1コースは卓子式、碁盤式、蓋石式など多様な形式の支石墓一望できる。教育の場です。



・1コース 卓子式支石墓



協同と結束力を高めるための記念物



・2コース 変形卓子式支石墓

重さ120~150トンの巨大な支石墓に畏敬

現在移住が完了したメサン村のそばで東西約276mにかけて41基の支石墓が分布しています。碁盤式15基、蓋石式11基、変形卓子式1基、形式不明14基の支石墓があります。卓子式はありませんが、碁盤式と卓子式の中間段階と考えられる支石墓が存在します。

碁盤式支石墓のうち、重さ120~150トンの上石を持つ巨大な2406号支石墓は墓域と一定の距離を保ちながら単独で存在する祭壇や墓域を象徴する記念物として築造されました。支石墓を築造した社会では多くの集団の協同と結束力を高めるために何らかの象徴的な記念物が必要であったため、巨大な上石を持った支石墓は一定地域内で挙族的な行事の一環として建立されたものと推定されています。このような記念物は墓域を象徴する記念物あるいは墓域を造成する集団の権威と威容をあらわすためのものと考えられます。



・3コース 支石墓群全景

3コース 支石墓の最大集中分布地



・3コース 発掘支石墓(1991年)

埋葬部の原形がよく残っており価値が高い

3コースの支石墓はソントウル峰と中峰の間の山なみの下にある谷間地に立地し、高敞支石墓遺跡の中心部に位置しています。変形卓子式20基と碁盤式17基、蓋石式50基、形式不明41基の支石墓など計128基の支石墓が存在しますが、上石の一部が破壊され石積みが作られていることから見ると、元々支石墓の数はさらに多かったと考えられます。雲谷里にある2318号から2333号にかけての16基は支石墓の形式変遷過程を確認するという学術的な目的から1991年、円光大学校馬韓百濟文化研究所によって発掘調査が行われました。調査の結果、変形卓子式(地上石槨式)と上石の重さを支えるための補助支石を持つ形式、上石を支石のみで支える碁盤式など多くの型式が調査されました。



・支石墓採石場の様子

23ヶ所の支石墓採石場



・K地点採石場の様子

支石墓の築造過程が分かる遺跡

高敞支石墓の上石を切り出した採石場は、支石墓群の裏山にあるソントウル峰と中峰周辺の23か所から発見されました。頂上部のソントウル峰周辺で15か所、中峰周辺で8か所が調査され、主に7~8合目の稜線に群集をなして広い範囲に存在していることが明らかにされました。

447基の支石墓に用いられた岩石の主成分はデイサイト質凝灰岩及び安山斑岩で、採石場の岩石成分と同じです。

K地点の採石場は3コース裏手の‘支石墓採石場への道’という案内板にしたがって北に行くと海拔80~85m程度に位置しています。原石は40m×20mの範囲に中大型の支石墓の上石にふさわしい石材が散在しています。原石から切り出した痕跡は主に前面で明確に見られ、V字形の長い矢穴を節理面に施し、楔を打ち込み上部を叩いて切り出す方法を採用しています。矢穴をあけて楔を打ち込んだ痕跡があり、原石から剥がれて下に転がり落ちた岩石が周辺に残っています。このように高敞支石墓遺跡の採石場は、原石の節理面の穴を利用して楔を打ち込み切り出す方法を利用したことが確認されています。



列状に分布する支石墓



•5コース 支石墓

列状に位置する2m前後小型の支石墓が多数

5コースの支石墓はソントウル峰の南側斜面に高敞川の流れて並ぶように分布しています。変形卓子式25基と碁盤式40基、蓋石式130基、形式不明の支石墓25基など計220基の支石墓が分布しています。上甲里と竹林里につながるこの地点は5か所の小さな支石墓群に分けることができ、大きさ2m前後の小型支石墓と列状の支石墓群に出会える場所です。支石墓が群集して列状分布をなすものが多いことから、血縁を基盤とした集団の共同墓域あるいは支配集団の墓域と推定されています。



・道山里支石墓全景

典型的な卓子式支石墓



・甕置き場支石墓として知られている道山里 支石墓

卓子式支石墓など5基、村の民家に位置

道山里支石墓は高敞支石墓博物館から1km離れた道山村の民家の中にある支石墓として知られています。標高43mの丘陵上に卓子式支石墓1基と碁盤式支石墓2基、蓋石式支石墓2基など計5基が分布し、竹林里の支石墓群とともに史蹟第391号に指定されています。卓子式支石墓は広い板石で築造された石室が地上に露出している形式で、板石4枚あるいは6枚以内で組み合わせた石室の上に平らな上石が載せられた姿が、まるでテーブルのように見えることから卓子式といいます。このような典型的な卓子式支石墓である道山里支石墓は甕置き場支石墓としても知られています。長さ350×幅310×厚さ38cmの支石墓の上石と支石2枚を用い、その規模は各々314×164×30cmと307×168×26cmです。上石の側面には上石を移動させる時に紐をかけて固定させるための溝の痕跡があり、支石と上石の間には長さ20cm前後の楔石を用い、隙間には土を補充しています。

【高敞支石墓の発掘調査】

支石墓遺跡内で発掘調査は3回にわたって行われました。1965年に国立博物館調査団によって3基の支石墓、1991年には円光大学校馬韓百済文化研究所によって3コースにある16基の支石墓と2004年には災害支石墓が調査されました。

1965年の発掘調査

発掘調査が行われた上甲里支石墓はソントゥル峰の南側斜面面に立地し、等高線と高敞川の方向に沿って2~3条の列状に分布しています。発掘された支石墓は3基で、A号支石墓は下部に石室を簡単に作った後、その上に直接巨大な上石を載せた形式で、B号は上石の下に4個の支石を置いた形態で、上石は長さ210×幅180×厚さ65cmであり、その下の中央部から長さ150×幅40×深さ35cmの石室が確認されました。C号は墓を作ってその上に支石を置いた碁盤式支石墓であり、墓の周囲を積石施設で補強しました。出土遺物は1点も確認されませんでした。隣近の丘陵の地表から磨製石剣の柄部片1点が採集されており、これらの支石墓の性格を間接的に示唆しています。

1991年の発掘調査

3コースの支石墓の発掘調査は支石墓の下部構造と形式変遷を確認する学術的な目的で行われました。計16基の発掘調査で変形卓子式と地上に石室を作り、石室の壁石だけで上石を支えきれず補助支石を置いたもの(2428号)、地上に数枚の補助板石を立てたもの(2331号など4基)、地上に数枚の補助板石を立てて補助支石を支えたもの(2328号など3基)など支石墓の多様な石室構造が確認できました。



・1991年に発掘調査された支石墓(3コース)



・発掘調査された災害支石墓(2コース)

2004年の発掘調査

2003年の台風によって竹林里支石墓2419号は完全に倒壊し、2433号は流水によって倒壊する恐れがあることから、災害支石墓と名付けられ2004年に円光大学博物館によって発掘調査されました。倒壊した2419号と2433号そして周辺で発見された石室1基の計3基が発掘調査されました。2419号は4個の支石を基本とし埋葬主体部や敷石施設は確認されませんでした。2433号支石墓は単独で位置し、全体的な姿があたかもジャンプしようとするような形状をなす支石墓です。支石墓の築造はまず地面を掘って支石を立てた後、周囲を小さな石で補強して全面的に盛土し、上石を載せたものと考えられます。遺物は支石の間から無文土器片と赤色磨研土器片が出土しました。そして、2433号の周辺から支石墓の下部構造と考えられる石室が発見され、ここから完全な形の粘土帯土器が副葬品として出土しました。これは高敞地方で最初の出土例であり、この地域の支石墓が全南地方と共に粘土帯土器文化期まで築造されたことを物語る資料と評価されています。



・新たに発見された石室出土
円形粘土帯土器(2コース)

【道山里支石墓の物語】



・望北壇伝説が残る道山里支石墓

道山里支石墓は卓子式支石墓として、住民たちの間では望北壇、望北台あるいは望谷壇と呼ばれています。この支石墓がある家は宋大将の家の跡地であり、宋大将は名が基想、号は牟隠といい、ここで出生したとわれています。その後、丙子胡乱が起きると義兵を起し北上する途中、中国との屈辱的な和議が成立したことを知り、ここに戻って一生、望北痛拝したという伝説が残っています。

* このことは恩津宋氏牟隠公派の系図に記録されています。

【北男南女支石墓物語】



・1コース 卓子式支石墓

高敞支石墓の1コースには男女間の哀切ないきさつが込められた支石墓の物語*があります。江華島に住む君長**の息子は戦争に敗れて数人の部族と共に船に乗って高敞の心元湾を通してここメサン村までやってきました。メサン村の君長の娘の美貌に引かれ、その娘と付き合うようになり、娘の父に結婚の許しを求めました。

しかし、父の反対で志を果たすことができず、君長の娘は世を去ってしまいました。死んだ娘のために南側の君長の父は北側の代表的な卓子式支石墓の支石を立て、南側の代表的な碁盤式支石墓の巨大な上石を載せて二人の愛を認めてやったという北男南女の悲しい物語が伝わっています。

* この話はメサン村に伝わる物語です。

** 君長：原始部族社会の長

【亀岩物語】



・高敞 星内落山村 支石墓



・子午線合わせ

高敞の星内面落山村は300年以上続く『輪図』を作っている輪図匠保有者、金鍾垈技能匠が暮している場所です。落山村の裏山であるジェソン山には亀岩と呼ばれる支石墓があり、東西に横たわった背中部分には7つ

の穴が掘られています。その上に完成した輪図を置くと、南北を正確に指すか確認できます。他の村で作った輪図はここで試してもうまくいきませんが、落山村で作った輪図は正確に指すと言います。

* 輪図は指南性がある指針を活用して止観たちが風水を見たり旅行者が方向を知るために使う一種の羅針盤です。

* キム・ジョンデ技能匠は重要無形文化財第110号です。

III

韓国支石墓文化15の謎



韓国は世界支石墓文化の中心地であると言える。
支石墓の築造と発掘遺物などを通して
先史時代の人々の暮らしと政治体系、生活様式を推測できる。



・ひき蛙岩(羅州 万峰里)



・船岩(康津 秀陽里)



・莞島 青山島支石墓

01. 支石墓とは何か

コインドルは支石墓を指す韓国語



・和順 碧松里支石墓

形によって船岩、亀岩、ひき蛙岩

コインドルとは地上や地下に遺体を納める石室を作り、その上に大きな石を載せた先史時代の墓が主な機能です。平らな板石や塊石形の石の下を石で支えて地上に築造された、つまり支えている石という意味である支石墓を韓国語で表現したものです。

民間ではコインドルを自然石が地面に埋まってことからドックベキ、パウベキ、ドックパウイ、支石が支えている碁盤式支石墓の場合、グェンパウ、アムダックパウ、上石の形状によって船岩、亀岩、ひき蛙岩、蛙岩などと呼ばれています。また、民間信仰と関連させてコインドルの配置様相から七星岩、昔の将軍が石を移す途中にやめてしまったという将軍岩などとも呼ばれています。村の名前もコインドルと関連して船岩(ベパウイ)、亀岩(グィアム)、七岩(チルソンアム)、支石(グェンドル、コインドル)と呼ばれています。

02. なぜ、石で作ったのだろうか

石に込められた不滅性と堅固さの崇拜

変わらない石に念願の表現、永続性を祈る岩刻画の石剣

岩や石は私たちに堅固さと不滅性を感じさせます。特に、周辺の自然環境に頼りながら生きていた先史時代の人々には周辺の環境と気候変化によって彼らの生死が左右される時期でもありました。そこで周辺環境の変化にも変わらず長い間残っている巨木や巨石に対する崇拜は自然発生的であったと言えます。

岩を利用したコインドルは死者の魂霊の象徴的な安息の場所として、また死者の魂霊が及ぼすかも知れない危害から生者を保護するという考えもあったことでしょう。これは支石墓の副葬品として磨製石剣や磨製石鏃など武器が主に見られることは死者の魂を守ってくれるものとして、一方では、現世で享受した生活や身分と地位を死後の世界でも保障するという意味も含まれています。



・人生の永続を祈願(麗水 五林洞 岩刻画)



・洞祭の対象となった立石

03. 誰が作ったのだろうか

共同体社会の儀礼行為

集団の協同と結束力を高める共同体作業

支石墓を築造するには数トンから数十トンにもなる巨大な岩を採石、運搬する過程を経ることになります。ここでは長時間におよぶ大規模な労働力を要します。大規模な労働力を動員できる社会は安定的な食糧を確保できる農耕を背景にした社会と言えます。そこでコインドルは稲作をはじめとした農耕と一定した領域圏が形成された定着生活、血縁を中心にした共同体集団の儀礼行為として築造できたのです。また、コインドルを築造し多くの集団の協同と結束力を高めるために一定の地域内で農業共同体といった共同体社会が形成されなければなりません。古代社会に見られる結いのような協同組織が形成された共同体社会を背景にした血縁集団間の挙族的な行事の一環として、自身の先祖の墓だけでなく集団の記念物であるコインドルが建てられたと考えられます。この行為は共同体社会の力の結集と協同団結を行ううえで大きな役割を果たしたものと理解されます。



・上石を移動させる様子(高敞支石墓博物館)



・上石を移動させる様子(和順支石墓先史体験)

04. 支石墓ってどんな形?

独自の文化、多様な形態

01. 卓子式支石墓

テーブルのような平たい上石

広い板石で築造された石室が地上に露出している型式で、板石4枚あるいは6枚以内で組み合わせた石室の上に平らな上石が載せられたものです。あたかも

テーブルのように見えることから卓子式と呼ばれます。主に漢江以北から中国の遼寧地域に集中分布しているため、北方式とも呼ばれています。卓子式の中で大型のものは主に祭壇や記念物として築造されたものです。

卓子式の中で長さが8m以上で幅が5m以上、高さ2m以上の超大型級の支石墓は遼東半島と韓国的大同江流域でのみ見られ、丘陵や山の中腹に1基のみ立地することが特徴です。これに比べ、南側の卓子式支石墓はおおよそ3~4m大の上石とその下の石室の高さが1m以内で支石墓の規模が小さく、石室の幅も狭く作られています。これまで発見された卓子式支石墓の南方限界線は慶南居昌と全南靈岩、康津で見られます。



・務安 城東里支石墓



・中国 海城 析木城支石墓

02. 碁盤式支石墓

碁盤形の巨大な上石

碁盤式支石墓は板石を立てたり割石、自然石で積み上げた石室を地下に作り、その周囲に支石を4個から8個ほど置き、その上に巨大な上石を載せるとあたかも碁盤のように見える形態です。外形上は

地表面から築造され壮大に見える碁盤式支石墓は、上石が巨大で塊石状を呈する大型のものは湖南と嶺南地方でのみ見られる形態で、明確な石室がないものが多く見られます。北朝鮮ではまだ知られていない型式であり、南方式支石墓とも言います。規模が大きい碁盤式支石墓は山

麓や丘陵上、谷端部の平地に1基のみ存在することが一般的ですが、支石墓が群集をなす場所では中央あるいはある程度離れて独立的な位置にあります。このような支石墓の上石はおおよそ長さ3~6m、厚さ2~4m程度の卵のように丸い形態と各面がまっすぐ切られた直六面体形態の外形を呈しています。



・谷城 金盤里支石墓



・靈光 ビョングム里支石墓

03. 蓋石式支石墓

石室の真上を覆う蓋

蓋石式支石墓は地下に作った石室の真上を蓋で覆った形式を言います。支石が無く、石室の真上を覆ったことから無支石式、蓋式、大石蓋墓などとも呼ばれています。この形式は大部分で石室が確認されており、元々墓の機能を持って築造されたものです。遼東半島、韓半島、日本の九州地域に分布しており、支石墓の形態の中でも最も普遍的なものとして用いられたことが分かります。上石の形態においても板石形、直六面体である長方形、凸レンズ形の長楕円形など多様です。北側の地域では上石は薄いですが、南側の地域では厚くなる傾向があります。支石墓から出土する遺物も大部分この形態から出土します。



・光陽 紙谷里支石墓



・咸平 シンゴク支石墓

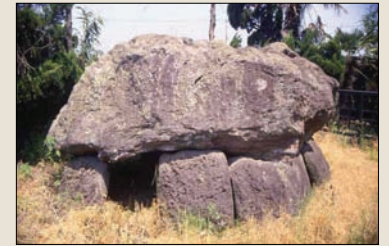


・宝城 竹山里下竹支石墓(光州博物館移転復元)

04. 囲石式支石墓

上石の周囲に沿って露出した石室

濟州式と呼ばれる囲石式支石墓は石室が地上に露出し、数枚の板石が上石の端部に沿って立てられた形態を呈します。地上にあらわれた板石の数が6枚以上で、石室の平面形態は上石の平面形態と同じような楕円形や方形に近い形態を持つことが特徴的です。これは長方形が基本形態である他の地上石室とは根本的な違いを見せます。代表的なものは濟州の龍潭洞6号支石墓で板石11枚が上石の下端部に沿って楕円形に巡らされています。この類型は韓国の濟州島でのみ見られるもので、中国の浙江省地域でも類似した石室構造が発見されています。



・濟州 龍潭洞6号支石墓



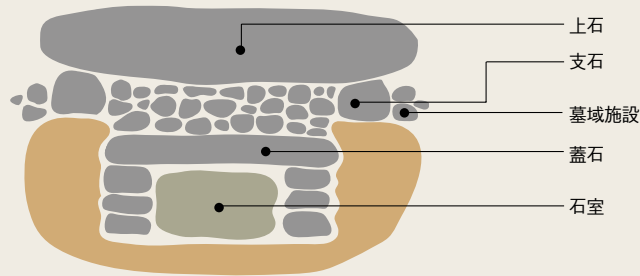
・濟州 空港前支石墓



・濟州 龍潭洞1号支石墓

05. 支石墓はどのような構造を持つのか

地域・文化によって異なる構造



・谷城休憩所支石墓

01. 上石

石室の上に載せられた巨大な石

支石墓で最も特徴的な要素で、石室の上に載せられた巨大な石です。これは地表面に設置されたり支石によって支えられており、蓋石、撐石とも言います。



・昌寧 幽里支石墓

02. 支石

上石を雄壮に見せる役割

上石を支えており、支石またはグェムドルとも言います。卓子式支石墓では広い板石によって上石を支えているため石室を構成する板石自体を指し、碁盤式支石墓では柱形や丸みを帯びたり角張った石で支えている石を言います。上石を直接支え、下部構造である石室の破壊を防ぐ役割と上石をより壮大に見せる役割を持っています。

上石を直接支え、下部構造である石室の破壊を防ぐ役割と上石をより壮大に見せる役割を持っています。



・和順 茶智里ウォルジョン支石墓

03. 墓域施設

石室の周囲に敷かれた石

上石の下にある石室の周囲に石を敷いたり積んで区画したものを言います。石室の周囲を補強し、上石の重さが石室に直接かからないよう分散させる役割と広い墓域や墓域の端を区画して墓域を表示する機能を持つものがあります。これは割石や川石を積んで作ったものと平らな板石や自然石を敷いたものがあります。前者を積石、後者を鋪石、敷石と呼びます。石室の周囲に石を多重に積み上げたものを石築型、埋葬主体部の周囲に溝を掘って区画したものを周溝型と言います。



・宝城 竹山里下竹支石墓

04. 蓋石

石室を覆っている石

石室を覆っている石で、遺体を保護すると共に上石の重さから石室の破壊を防ぐ役割を果たします。蓋石は板石1枚のものと数枚の板石で覆ったものがあり、一般的には一重ですが多重に積む場合もあります。



・宝城 竹山里下竹支石墓

05. 石室

遺体が納められる空間

支石墓の下部構造として石で作られた埋葬空間です。石を立てたり積み上げて築造した埋葬空間の総称で、大部分平面が長方形を呈し竪穴式です。石棺、石槨、囲石などに区分されます。

06. どんな遺物が出土するのか

死者のために作られた副葬用遺物

死者の性別、身分、頭位を推定可能

石室の中に入れられた副葬用遺物には武器類、供献土器類、装身具類などがあります。副葬用は遺物が完全な形で残っているものが大部分であり、死者と直接的に関わる遺物として死者が所有したものや、死者のために別途に作ったものを遺体とともに石室に納めた遺物です。これを通して死者の性別、身分、頭位を推定できる重要な意味を持ちます。



・支石墓から出土した副葬遺物

▶ 武器類(石器)

最も多いものは武器類である磨製石剣、石鏃が代表的である。磨製石剣は一般的に1点ずつ副葬されますが、石鏃は数点ずつ発見される場合が多々あります。磨製石剣は遼寧地域ではまだ発見されておらず、北朝鮮でも極めて一部で出土しており、漢江以南地域で副葬品として多く発見されています。支石墓から発見された石鏃は副葬品の場合、磨製石剣と共に10点以内が出土し、被葬者の腹部や腰部から発見されます。しかし、全南宝城郡徳峙里では磨製石剣、青銅鏃とともに石鏃29点が、慶南居昌大也里では磨製石剣とともに石鏃28点と42点がそれぞれ1つの石室内に副葬された例もあります。



・麗水 積良洞 石剣出土状況

▶ 武器類(青銅器)

当時、稀少で特殊階層のみ所有できたと考えられる青銅器は琵琶形銅剣が多く、琵琶形銅矛、青銅斧と青銅鏃、韓国式銅剣もあります。琵琶形銅剣はその形態が昔の楽器である琵琶と似ているから付けられた名称であり、中国の遼寧地域で集中して出土していることから遼寧式銅剣とも呼ばれています。支石墓出土の琵琶形銅剣は錦江流域のものもありますが大部分は韓半島南海岸地域、特に麗水半島で大量に出土しています。細形銅剣は京畿道楊平上紫浦里と全南靈岩長川里支石墓で出土しています。



・麗水 積良洞出土 琵琶形銅剣

▶ 供献土器



・高興 ハンチョン支石墓

供献土器には赤色磨研土器と彩文土器があります。赤色磨研土器は細かい粘土を利用して成形した後、表面に酸化鉄を塗って磨研し光沢が出て焼いた土器を言います。赤色を呈することから紅陶、丹塗磨研土器とも言います。その形態は頸部を持つ丸底の壺で、南漢江流域と錦江、洛東江、宝城江、南海岸地域など南韓地域の支石墓でのみ出土し、主に南海岸地域で大量に見られます。彩文土器も赤色磨研土器と形態は同じですが灰白色を呈し、頸部付近に黒色のナスビ文が施されているもので、南海岸地域の支石墓で主に出土しています。



・高興 ハンチョン支石出土彩文土器

▶ 装身具



・麗水 平呂洞出土 玉

装身具類は天河石製勾玉、丸玉、小玉と碧玉製の管玉があります。勾玉は青地に白いまだらがある天河石製を利用して作ったもので一方の頭部に小さな穴があります。全南麗水平呂洞では1つの石室内から丸玉は対で、小玉は数点または数十点が発見されました。これは首飾りと服の装飾品と考えられ、馬韓に対する文献には‘馬韓人は金、銀よりも玉を尊び、これを耳や首にか



・麗水 平呂洞出土 玉

けたり服に飾ったりした’という記録があることから、すでに支石墓社会でも玉を飾っていたことが分かります。

06. どんな遺物が出土するのか

石室の周囲や墓域の儀礼用遺物



・豊岩 チョンホ - 三湖間支石墓



・儀礼用遺物出土状況(石包丁)



・儀礼用遺物(石包丁)

死に伴う祭祀饗宴と関連

儀礼用の遺物は石室の周囲や墓域施設から発見され、死者を哀悼する意味の葬送用や死に伴う祭祀饗宴と係わる祭儀用、支石墓の築造に伴う生活用遺物があります。葬送用遺物は石室の周囲に磨製石剣を数片に割って重ね置く場合や石室の側や蓋石の間から出土します。祭儀用は祭儀を執り行った後、わざと割って周りに撒いた石器や土器片であり、生活用は支石墓の築造時に用いた遺物で、砥石や工具用石器があります。

これらの儀礼用遺物は大部分破損したもので割れた破片です。そして、形態上完全なものをわざと割ったものもあります。この破損品は死と関連する破儀式の所産物と見ることもできます。

07. なぜ遺物を納めたのだろうか

死んだ人に対する哀悼と尊敬



・順天 牛山里内牛支石墓

遺物をなぜ死者のそばに副葬したのでしょうか?墓には死と関連して一生の最後の段階で死者に対する哀悼と尊敬などの表示としてあらわれた結果物として、当時の来世観や現世観が反映されています。

武器類は現世で自身を保護する機能と相手を威圧する機能を持ちます。一方では権威の象徴物と社会的な地位を意味します。麗水五林洞支石墓の上石には磨製石剣とこれに向かって祈る人物像が岩刻画として刻まれています。これは死者を保護する意味を持つと解釈されます。

支石墓の副葬品として磨製石剣以外に赤色磨研土器があります。この土器は現世と来世をつなぎ永遠の生命力を持てるようにする宗教的な儀式で用いられました。死後の世界があるという当時の来世観から見ると、死者に血を供給する儀式と見ることができます。支石墓の石室に安置された遺体の上下に黄土を撒く場合があり、赤い石を石室の側に置いたりもします。赤色は来世での再生と復活を望む意味が込められています。



・赤色磨研土器

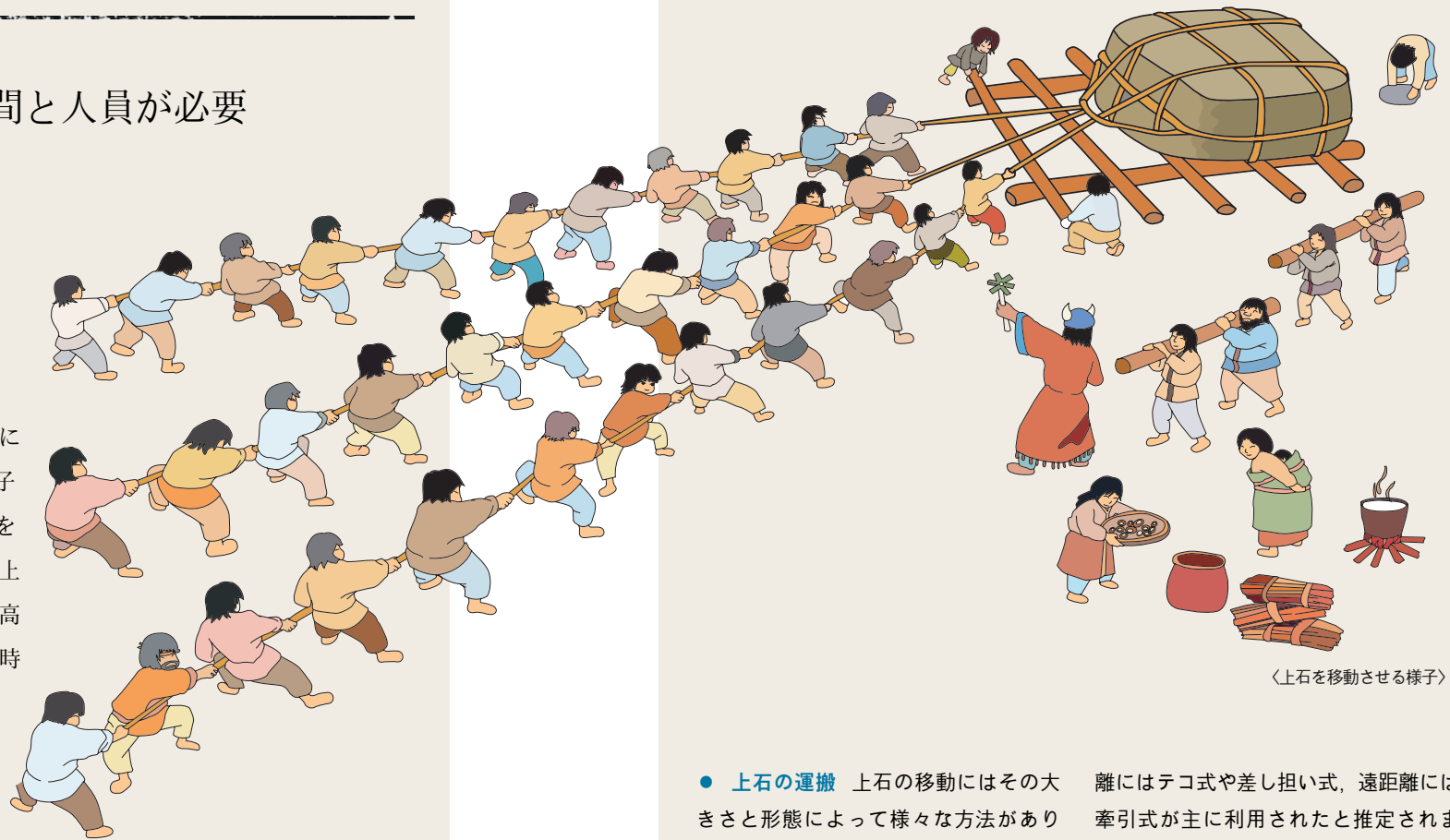
08. どのように作ったのだろうか

高度な技術、多く時間と人員が必要

支石墓の最大の特徴は巨大な上石にあります。支石墓の築造過程で卓子式支石墓は地上の支石の上に上石を載せますが、碁盤式支石墓は巨大な上石を支石墓の築造場所まで移すのに高度な技術が必要で、なおかつ多くの時間と人員が必要となります。

- **支石墓を建てる場所を準備** 一定の場所を選んで整地します。この位置選定は周辺の他の集団の了解と同意のもとに行われたのでしょう。
- **上石の入手** 支石墓の築造に必要な上石は近隣で自然的に分離した石材を加工

して使ったり岩壁から上石を剥離する作業を通して入手しなければなりません。この時、岩壁の節理を利用しますが適当な大きさの穴をあけて楔やテコを利用して剥離させます。この作業には石工のような専門家が必要となります。



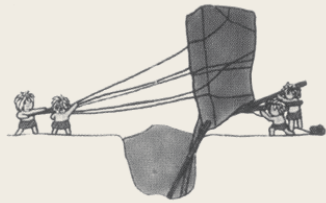
〈上石を移動させる様子〉

- **上石の運搬** 上石の移動にはその大きさと形態によって様々な方法があります。一般的に入手した上石を山から転がしたりしますが、墓まで移動するには運搬路を設けなければなりません。上石を動かし易くするため丸太のレールを敷いて、その上に横切るように丸太を載せた後、綱で縛った上石を載せて多くの人々が引いて移動させたものと推定されます。また、Y字形の木製そりや寒い地域では氷の上を利用したでしょう。軽めの上石は差し担い式、近距

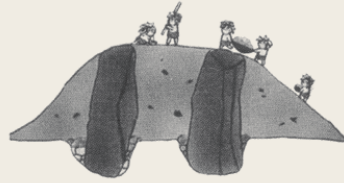
離にはテコ式や差し担い式、遠距離には牽引式が主に利用されたと推定されます。

- **石室作り** まず、墓壙を掘ってその中に遺体を安置する石室を作りますが、主に板石や割石を利用して四角形に立てたり積み上げます。石室を作る時、磨製石剣や赤色磨研土器を葬送用に納めることもあり、遺体のそばには武器類や装身具類、供献土器を副葬します。

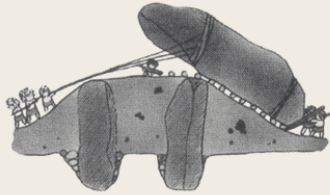
上石をのせる方法



1. 穴を掘って支石を立てる。



2. 支石を立てた後、土で埋める。



3. 上石をのせる。



4. 支石墓を完成させ祭祀をおこなう。

● **支石と墓域の設置** 石室作りが終わると、その周囲に支石を立て平たい石を敷いて墓域を区画します。その次に上石を引き上げやすいように傾斜をつけて土を積み上げます。

● **上石載せ** 支石墓の築造で一番困難な作業で、支石の上にバランスをとりながら上石を正確に載せるには高度の土木建築学的な技術が必要です。運んできた上石を傾斜をつけた盛土の上に引き上げ、その後盛土を除去したものと推定されます。

● **祭祀を執り行う** 支石墓の築造が完了すると、最後に死者のための祭祀または動員された人々のための饗宴といった行為が執り行われたでしょう。墓域の周囲から発見される割れた土器や石器片はそれらの痕跡です。このような支石墓の築造は同じ血縁集団のみならず近隣の血縁の人力まで動員してこそ可能な共同体集団の儀礼行為の一環でした。支石墓を築造した社会は石室を築造する人、運搬路を作る人、上石を引く人、指揮する人、食べ物を提供する人など多くの人員を動員できる共同体社会でした。

09. 築造規模はどれくらいだったのだろうか

少なくて50人程、多くて200~300人程

支石墓の上石を移動させる時、どれだけ多くの人々が動員されたのかについては実験考古学によってある程度明かにされています。韓国の花崗岩の重さは1㎡で2.3~2.8トンと2.5トン前後です。しかし、上石の大きさと実際の重さは石質と形態によって少し違いを見せますが、上石を移動する際の実際の重さはおおよそ1.8~2.0トンと推算できます。1トンの石を1マイル(1.6km)移動させるには16~20人必要で、32トンの大きい石を丸太と綱で移動させるには200人必要であるという研究があります。高敞での実験は9.8トンの石を85人で4時間の間に70mを引きました。このような実験は1人が120~160kg引くことができ、この他に動員された人を含めるとさらに多い

人々が必要となることがわかります。

このように支石墓の運搬と築造には多くの人々が動員されましたが、少ない場合50人程、多い場合200~300人程になります。一家族5人の中から1~2人が支石墓築造に動員されたとすると、多い場合1000人から1500人の人口を持つ集団であればこそ支石墓の築造が可能であると言えます。このような動員は当時の支石墓社会において1つの挙族的な行事でした。



・上石を移動させる様子

10. 墓としてのみ使われたのだろうか

墓と祭壇墓標石として使用

青銅器時代墓制の中で石棺墓、土壙墓、甕棺墓は墓としての機能のみ持っていますが、支石墓は墓以外の機能も持っています。このような支石墓の機能については支石墓に見られる上石の形態と下部構造、立地と群集内での位置から見て、次の3つの機能に区分できます。



・墓として使用された支石墓(長興 葛頭タ支石墓)

支石墓は墓として使われた

支石墓が墓であることは19世紀末から提起されていましたが、忠北堤川黄石里13号支石墓から完全な人骨が発見・報告されたことから、一般的に認識されるようになりました。支石墓の石室の規模が墓としての形態と大きさを持っており、石室の長さや幅が多様で伸展葬、屈葬、2次葬、火葬という葬法が用いられたと把握されています。墓であるという根拠としては、まず、支石墓が一か所に群集して分布する点、2つ目、墓の最も直接的な資料である人骨が発見される点、3つ目、墓の築造過程で納められた副葬品が発見される点を挙げることができます。

支石墓は祭壇として使われた

支石墓を築造した社会において多くの集団の協同と結束力を高めるためには何らかの象徴的な記念物が必要でした。巨大な上石を持つ支石墓は一定の地域内で挙族的な行事の一環として築造されたと考えられます。

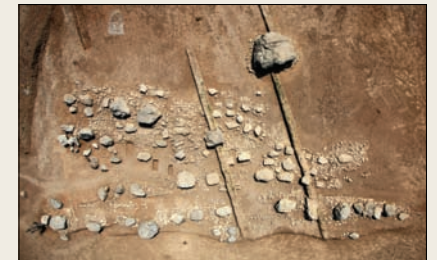


・祭壇として使用された支石墓(和順 官庁岩支石墓群)

その築造には多くの人々の動員そして協同と団結力なくしては困難な作業です。したがって、地縁によって結束した複数の集団の公共集会または他の集団との境界を示す建造物として、祭壇の意味を持つ支石墓が築造されたと考えられます。

墓標石として使われた

墓標石は墓域を象徴する記念物または墓域造成集団の権威と威容の誇示そして単純に墓域であることを表示するなどの機能を持つと把握されています。これらは支石墓群の中に存在し、大きく2種類に分けられます。



・墓標石として使用された支石墓(麗水 月内洞上村支石墓)

1つは祭壇支石墓のような規模を持ち、群集の中央や一方に偏って位置するもので、もう一つは前者より小型で、石室を持たないものに分けられます。

11. 支配者のみが支石墓に埋葬されたのだろうか

特定階級のみの墓とは判断しがたい

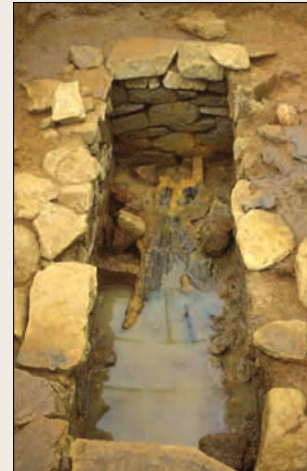


・順天 牛山里内牛支石墓

支石墓に葬られた人の身分については多様な意見があります。葬られた人の身分が分かる場合はほとんどありません。韓国の支石墓は地域によって形態や密集度が異なり、石室の群集性や形態において多様な側面を見せることから様々な主張が提起されています。支石墓に葬られた人つまり被葬者は支石墓が長期間にわたって築造されてきたため、時期によって被葬者の身分も変化したはずでしょう。ある地域では強力な支配者がいち早く出現した場所もあり、遅く出現した場所もあったでしょう。一方、支石墓の群集様相によって石室の構造や配置に違いがあるため、ある特定階級や階層のみの墓と判断しにくいという点があります。そこで支石墓に葬られた人の身分は族長といった支配者の墓であるという説、支配者とその家族の墓であるという説、血縁共同体集団の共同墓という説、戦死者の墓という説があります。

12. 支石墓から発見された骨は何を意味するのか

葬礼風習、信仰形態など推定可能



・昌原 徳川里支石墓



・堤川 黄石里支石墓出土人骨



・堤川 黄石里支石墓出土玉

支石墓は韓国の場合、いくつかの遺跡で人骨が発見されており、大部分が墓として築造されたことが分かっています。韓国の土壌は酸性が強いため有機物質である人骨が腐食し残ることはほとんどありません。支石墓から人骨が発見された例は忠北堤川黄石里、江原春川中島、大邱達城辰泉洞、慶南晋州大坪里などが知られていますが、中国吉林地域と北朝鮮地域では多くの人骨が出土したという報告があります。このような人骨の出土から支石墓築造当時の葬法、頭位、副葬品が置かれた位置を通して葬礼風習をうかがい知ることができ、また当時の思想、信仰的な側面を推定できる資料でもあります。支石墓から発見された人骨から見て、1つの石室に1人のみ埋葬することが一般的ですが、卓子式の場合、石室の一方を開閉できる門石が設置されており、多くの遺体を一緒に葬る複葬制の可能性を示しています。黄海道五德里支石墓のように石室内を3~4つの空間に区切り、そこに



・北方系の加耶女性(チョ・ヨンジン教授復元・高敞支石墓博物館)



・2万年前の晩達人(チョ・ヨンジン教授復元・高敞支石墓博物館)

人骨が散在する特殊な例もあります。

人骨が完全に残っている忠北堤川黄石里の2つの石室から人骨が各1体出土しました。この人骨は伸展葬された成人男子であり、身長は174cm、145~150cm、年齢はおおよそ20~30歳初盤と推定されています。また、磨製石剣や勾玉と管玉が副葬されていました。この石室から出土した勾玉は頭側から対で出土しており耳飾りとして用いたものと考えられます。身長が174cmの人骨を復元したところ、長頭で鼻が大きくほお骨が出た人物になりました。その姿は短頭型の私たちの姿とは異なり、長頭型の西洋人の顔をしています。

13. 支石墓はいつ築造されたのだろうか

紀元前5000年頃からヨーロッパで築造され始める

農耕と密接な関連を持ち新石器時代から築造開始

支石墓はいつ頃から建てられたのかという問いは多くの人々が持つ共通した疑問です。支石墓の築造はヨーロッパの場合、絶対年代測定を基準にしておおよそB.C.5000~4500年頃に始まったとされ、その時期は新石器時代に該当します。新石器時代の特徴の1つである農耕の開始と関連し、それと共に巨石文化が近隣の西ヨーロッパ地域に拡散したと推定され、フランス西岸にあるブルターニュ地域を中心地としています。アジアで支石墓築造が始まった時期はインドが紀元前10世紀前後、日本が紀元前4~5世紀頃、中国が紀元前11~12世紀、北朝鮮が紀元前12世紀頃ですが、最近では紀元前40世紀と主張されています。このように世界の巨石文化は農耕文化と密接な関係を持ち、新石器時代から築造が始まりましたが、地域によってはその形態や時期が異なります。韓国の場合、紀元前12世紀の青銅器時代に作られ始めました。



・デンマークの支石墓



・日本 原山支石墓

14. 韓国の支石墓はいつ出現したのだろうか

紀元前12世紀頃と推定

支石墓は1000年間作られた先史時代の産物

支石墓の築造年代については文献記録がないため、出土遺物の年代と型式間の前後関係を基に推定したり、自然科学的な年代測定資料を応用して時期を把握します。絶対年代資料から見た支石墓の築造年代は紀元前12~9世紀という共通した測定値を示し、紀元前12世紀頃には支石墓の築造が始まったと考えられます。

近年、北朝鮮では檀君陵の発見以後は支石墓を檀君朝鮮と関連づけ、従来の紀元前12世紀説から絶対年代測定結果を基に紀元前40世紀後半期まで遡らせています。この年代は電子スピン共鳴法(ESR)、熱ルミネッセンス蛍光法(TL)、フィッシュントラック法(FT)などを利用した絶対年代資料を根拠にしています。

支石墓の消滅は青銅器時代後期の遺物の出土から紀元前3~2世紀説が一般的に受け入れられています。

したがって、韓国の支石墓は紀元前12世紀から紀元前2世紀までの1000年間築造された青銅器時代の産物と言えます。



・和順 碧松里支石墓

15. 支石墓はなぜ消滅したのだろうか

新たな支配階層の登場と 先進文化の受容による



・和順 大薪里支石墓

社会変化によって人力動員などが困難

支石墓はなぜ消滅したのでしょうか?支石墓の消滅は当時の社会変化と密接な関係の中で起きた出来事です。支石墓後期の社会は支配階層の登場と外部から先進文化を受容した時期です。支配階層である首長層の登場は既存の各地域を背景にした支配集団間の離合集散によって急激な統合が始まったことを意味します。農耕地確保のための戦争で得られた所産物で人々の身分の変化する現象があらわれます。すぐに集団内の人々の間に支配と被支配層という多様な階層が分化しながら権力の中央集中化が進行し、一方では合法的に征服戦争が行われます。このような過程で既存の支石墓に代わり封墳を持つ木棺墓が登場するようになりました。



・和順 方山里支石墓

この墓には多量の青銅器が副葬されました。青銅製武器で所属集団を強制的に制圧したり儀器類で集団の全ての儀式行為を執行しました。つまり、政治と祭祀を司る祭政一致社会における最高の支配者であることを誇示したのです。このような意味から支石墓とは異なる墓を選択することになりました。

次は先進文化の受容です。先進文化とは鉄器文化です。支石墓が築造された時期の青銅器は武器類が主であり、誇張したり巨大化して儀器化する一方、鉄器は武器よりは農耕具など実生活用具を多く製作するようになりました。これら鉄製農耕具は石器での作業量より3~4倍ほど高い能率をあげることができる道具です。この農耕具を利用した農耕地の拡張は必然的に多くの労働力を必要とします。このような社会的な背景から支石墓の築造は浪費であり、消耗的な作業でした。必然的に支石墓築造に動員された人力は生産活動に投入され、墓の様式も多くの人員動員を必要としない木棺墓に変化したのでした。

IV

支石墓人たちの暮らし



支石墓を作った青銅器時代

支石墓人たちはどのような暮らしを営んだのか?

自然環境に適応して固有の文化を作り出した彼らの生活をのぞいてみよう

支石墓人たちの暮らし -ムラの話

背山臨水の地域にムラを作って暮らす



・蔚山 椶丹里集落遺跡



・和順 内坪里 円形住居址



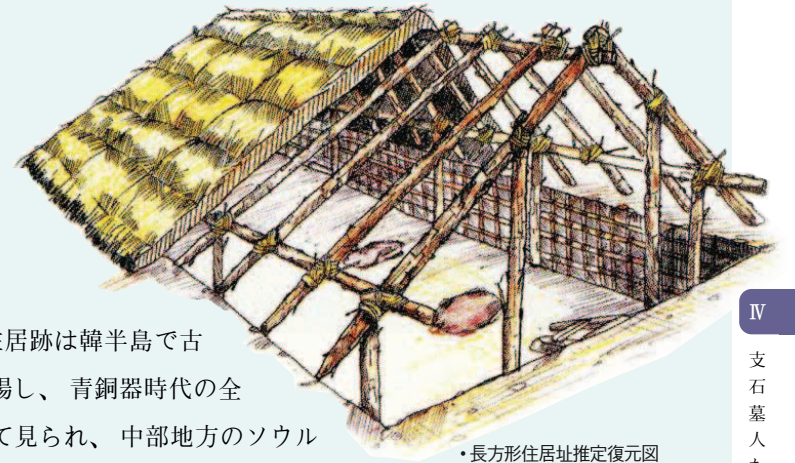
・和順 支石墓先史体験場 長方形住居址

地面を掘って堅穴住居を建て、暑さ寒さを防ぐ

支石墓時代の人々は地面を掘って家を建てる堅穴住居を普遍的な住居形態とし、おおよそ10棟前後の小さなムラを作って暮しながら、その周囲にはムラの境界と防御のための溝や木柵を設置しました。

支石墓人たちが最初に住み始めた場所は低い丘や川沿いでした。そこにムラをつくり農耕が本格的に行われると次第に低い丘の偏平な場所に大規模なムラを作り生活しました。初めは2~4棟の住居が集まっていましたが、次第に低い丘陵や川沿の沖積地に移動しながらその規模が拡大し多いと100余棟の住居が集まる大規模なムラに変貌していきました。

ムラから発見された住居跡は大部分が地面を掘って作った堅穴住居で、平面が四角形や円形を呈します。



・長方形住居址推定復元図

四角形の住居跡は韓半島で古い時期に登場し、青銅器時代の全期間にかけて見られ、中部地方のソウル

駅三洞、河南漢沙里、天安白石洞、保寧館山里遺跡で発見されています。一般的に血縁関係にある複数の世代の構成員が居住したと推定されています。これとは異なり南部地方では中期になると次第に規模が縮小する傾向を見せますが、これは拡大家族が分化し婚姻した夫婦とその子供たちで構成された同一世代の家族が1つの家屋から独立して生活したことを意味します。

円形住居跡は松菊里型住居跡と呼ばれ、住居跡内部の中央に楕円形土壇とともに柱穴が配置されています。錦江流域を中心に忠清、全羅、慶南地域一帯に広く分布し、済州島と九州地方でも確認されています。住居跡内部にある楕円形土壇の基本的な機能は石器または玉器を製作するための空間と考えられ、住居跡内部に炉跡が見られないため、共同で野外炊事したという見解もあります。

内部施設は今日のものと比べると質的な違いがありますが、必要なものは全てあります。屋外活動に必要な道具は出入口付近に、土器など炊事道具は炉の近くに置かれていることから、堅穴住居の内部空間を適切に区分して生活したことが分かります。

本格的な農業によって安定した食糧確保

足りない食糧補充のための狩猟、漁撈生活

米よりは粟、麦、トウキビが主食

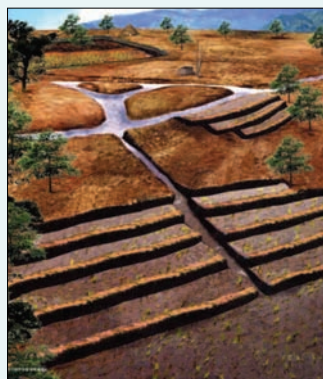
支石墓を築造した人々は安定した食生活を営むために農耕を行いました。依然として不足する食料は狩猟と漁撈、採集に頼らざるを得ませんでした。新石器時代以降、畑作が中心でしたが、青銅器時代になると畝間と畦という新しい発明を用いて粟、黍、トウキビと豆などの作物を栽培したり、地形的な条件をそのまま利用した稲作も行われました。

畑作で得られた穀物には米、小麦、大麦、キビ、アワ、豆、エゴマなどがあり、畑遺構は大邱東川洞、東湖洞、晋州大坪里、鎮安如意谷遺跡などで発見されています。

蔚山無去洞と論山麻田里遺跡では青銅器時代の水田遺構が発見されました。水田は自然地形をそのまま利用した3m前後の四角形で現在の水田と比べると非常に小さいものです。水田の床面、畦の形態などが確認され、水田と水田の間には水路があります。支石墓人たちは水を得やすく肥沃な低湿地を利用して本格的に稲作を始めたのです。



・論山 麻田里遺跡 水田遺構



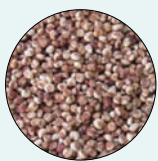
・論山 麻田里遺跡 水田復元図 (湖西地域の青銅器文化 2007)



稲



粟



蘆粟



大麦



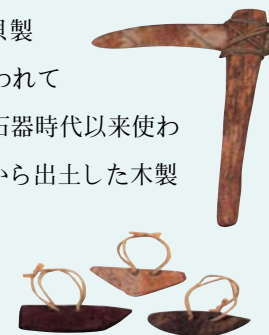
黍

磨製石包丁や石鎌で収穫を迅速に

青銅器時代の農耕具には穀物の穂を刈る石製や貝製の石包丁や鎌があり、これらは新石器時代から使われていたものです。土地に耕すのに使う掘地具には新石器時代以来使われてきた石鍬と石鋤などがあり、論山麻田里遺跡から出土した木製農工具からみて木製品も多く使われたものと考えられます。

石包丁は穀物の穂を取る収穫具で半月形を呈するものが多いですが、咸鏡道地方では方形、忠清道、全羅道海岸地方では三角形のものが作られました。最初は様々な穀物の収穫具として使われましたが青銅器時代中期に三角形石包丁が発生するとともに稲収穫専用になったと考えられます。半月形石包丁は実生活用はもちろん儀礼品としても使われました。墓の周囲から割れた状態で出土する例は、単純な使用による廃棄というよりは意図的に割って埋納したのと考えられます。

石鎌は穀物の収穫具で30cm近くになる大型から15cm前後の小型まで大きさは多様です。主に穀物や雑草を刈ったり穀物の穂を刈るのに使われたものです。



・復元された石包丁と石鎌



・種まきの様子(先史体験)



・収穫の様子(高敞支石墓博物館)

良質のタンパク質を補給



・石鏃を用いた狩猟の様子(先史体験)

支石墓人たちは大部分農業を営み生計を立てたため、狩猟の必要性は高くなかったと考えられがちですが、実際は稲作と畑作で得られる穀物の量は十分ではなかったと考えられています。穀物の収穫量が多ければ保存して翌年の収穫まで保存することができましたが、それはあくまで希望であり実際は収穫された穀物と採集、狩猟、漁撈などを通して食糧を確保しました。狩猟は食糧と皮革を得るための先史人の重要な生業活動であり、旧石器時代から行われ続けました。旧石器時代の狩猟の獲物は移動速度が遅い大型動物でしたが、新石器時代には素早い小型動物に変化し、旧石器時代に用いられた直接対象物に向けて突く槍より石鏃が普遍的に使われました。槍と斧が近距離用狩猟具であれば弓と矢は遠距離用狩猟具であるといえます。したがって、多くの遺跡で発見される石鏃の登場はこのような危機を乗り越えることができる新たな発明品でした。



・漁撈生活の推定復元図

支石墓人たちが最も多く仕留めた獲物は何でしょうか?遺跡から出土した動物骨を見ると、シカ、ノロ、イノシシ、ブタ、ノウサギ、留鳥、渡り鳥などがあります。この中でシカとイノシシはその量が多く、青銅器時代の人々が好んで食べた動物であることが分かります。比較的体が大きく簡単な方法で狩ることができ、良質なタンパク質の供給源になったと考えられます。



・狩猟で仕留めたシカ(高敞支石墓博物館)



・石包丁で肉を切る(先史体験)

豊かな作物を盛る器、土器

無文土器など多様な土器の使用

器は生活するうえで最も有用に使われた道具です。もちろん、木で作った器も使われましたが鉄で作った器が一般化する以前は土で形作り火で焼いて作った土器が普遍的に利用されました。土器で食べ物を煮炊きすることで消化吸収を良くし各種疾病を防ぎ、寿命も長くなったと考えられます。

支石墓時代に製作・使用された土器は文様がないため無文土器と言います。この土器は胎土に粗い砂を混ぜた粘土で成形して露天窯で焼いた平底土器で、

赤褐色や黄褐色を呈します。山や野原で拾い集めた木の実や農業を行い収穫した穀物の保存用の壺、運搬用の壺、食べ物を料理するための器、調理された食べ物を盛るための食器、そして墓に副葬するための土器などが製作されました。



・土器を製作する様子(先史体験)



・土器を製作する様子(高敞支石墓博物館)

用途別による土器の形態



・貯蔵用土器

貯蔵▶ 畑と水田で収穫された穀物は日常用として食べるために貯蔵し、翌年の農業のために特に種子も保管しなければなりません。生産された穀物を保存する必要から保存用土器の形態が変形・発展し、動物の侵入を防いだり腐らないように保管できる倉庫といった別途の保存施設も考案されました。さらには安全に貯蔵できる天然の貯蔵施設である地下式倉庫も作られるようになりました。

調理▶ 食べ物を調理するための器は高さ20cm前後の小さな壺や鉢が使われます。器の表面を観察すると火を受けた痕跡が見られることから、炉での料理方法は安定させて立てた後、その周囲で火を起こして煮沸したものと推定されます。



・調理用土器



・食器用土器

食事▶ 畑で雑穀の栽培、水田で米の栽培、狩猟、堅果類の採集などから見て、当時の人々の食べ物は穀類、魚介類、野菜、肉類、ドングリなど現在の一般的な食べ物と比べても大きく違いません。このような安定した食糧供給を基に調理した食べ物を盛るための小型器を製作・使用しました。器の大きさは5~11cm程度で浅鉢、皿、小鉢など用途による形態の分化が見られます。

支石墓人の暮らし - 石器の話

石を割って磨いて望む形に製作



・石器を製作する様子(高敞支石墓博物館)

支石墓時代には銅と錫、鉛といった新たな素材で道具を作る金属文化が導入された時期ですが、実生活では依然として石器を製作・使用しました。青銅器は製作の難しさ、材料の稀少さなど技術的な問題から支配者の装身具あるいは

儀器として作られる一方、日常道具は石器または木器が主に用いられましたが、新石器時代に比べて目的にあわせて大きさと形態が細分化し専門工人による石器の多様化が進みました。

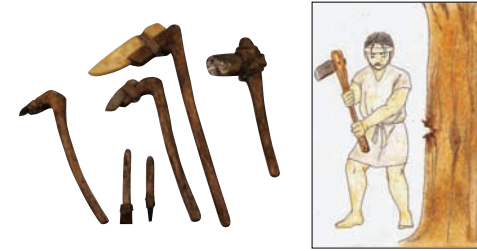
石器製作はまず適当な大きさに石材を割った後、形作りですが、最初から磨研するとあまりにも多くの時間がかかりますので1次調整を経た後、最終的に砥石を利用して磨研します。砥石は磨製石器を形作ったり道具に刃をつける際、重要な役目を果たします。石材には花崗岩、粘板岩、流文岩、凝灰岩、安山岩、頁岩など多様なものが使われ、装身具には天河石と碧玉が主に使われました。



・石器を製作するための工具類

石器の種類

- 伐採や加工-斧、鑿、カンナ



- 農業に必要な農耕具-石包丁、鎌、碾石と石棒



- 狩猟に必要な狩猟具-槍、鏃



- 武器と装身具-磨製石剣、玉



先端技術が導入された青銅器



・完成した青銅器

石で作った道具のみを使った青銅器時代の人々が初めて銅と錫という金属を知り、これを利用して琵琶形銅剣や銅矛、銅鏃、銅鏡などの青銅器を作りました。青銅器は採鉱-精錬-鋳型製作-鋳造という一連の工程を経て1つの製品が完成します。材料の稀少さから一般住民たちの実用品と言うよりは有力者のみが所有できた特殊品または身分を示す象徴物として使われました。

満洲と韓半島にかけて分布する韓国の青銅器は武器が大部分で、この他に工具、儀器、装身具、車馬具などがあり、文様は幾何学的なものが主に施されました。武器では剣、矛、戈、鏃などがあります。



・鋳型の製作



・鋳型に青銅を注ぐ

心を表現した岩刻画

岩は霊験さと生命力を同時に持っていると感じたため、人々は自分たちの考えや物語りを岩刻画を通して伝えようとなりました。岩に刻まれた絵と様々な文様を岩刻画と言いますが、岩刻画とは堅い石の鋭利な部分や金属製道具で彫り、穿ったり研ぐことで岩の表面に絵や文様を刻んだものを言います。岩に刻んだ理由は石は生命の源泉で再生と復活を象徴するためです。

麗水五林洞の岩刻画には2人の人物像、磨製石剣、物象などが陰刻されています。剣には生前に自分を守護し権威や身分を象徴する意味から来世でも死者を守ってくれるという信仰があり、岩刻画を刻むのは死者だけでなく墓自体も保護するという意味を持っています。

人物像は先祖に何かを捧げたり祈る姿と考えられ、先祖に対する葬礼儀式の一面を見せるものと考えられます。



・私たちを護ってください(麗水 五林洞 岩刻画)



・農耕文青銅器(細部)



・蔚州 盤龜台 岩刻画

盤龜台岩刻画にはクジラ、イルカなどの海のいきものを主題にして彫刻し、一方には獣の輪郭の他にトラ、シカ、ブタ、ヤギなど様々な動物が描かれています。これらの絵画を通して人々は自分が仕留めたい獲物を描き、また憶えておきたい事件を刻んで日常での願いが実現することを祈るため神の姿を刻みました。これらは全て当時の人々の生活の痕跡であり彼らの物語りです。

V

行ってみたい 高敞の文化遺跡



世界遺産、支石墓がある高敞には
先史時代の支石墓遺跡と共に邑城、寺、名所など
歴史時代に作られた文化遺跡も多い。

高敞郡主要観光案内図



韓国最初の 支石墓博物館

高敞支石墓博物館



・高敞支石墓博物館 全景



・高敞支石墓博物館 内部の様子

青銅遺物、支石墓文化が一目で観覧可能

全羅北道高敞郡高敞邑道山里676

西海岸高速道路高敞ICを下りて5分の距離に支石墓を形どった雄壮な3階立ての建物があります。総事業費183億ウォンを投入して約57988㎡の敷地に延べ面積約3952.8㎡の規模で建てられた韓国で唯一の支石墓専門博物館です。

高敞支石墓博物館は青銅器時代の各種遺物および生活の様子、そして世界の支石墓文化を一目で見れる韓国最初の支石墓専門博物館であり、屋内展示と屋外展示で構成されています。

屋内は1階が企画展示室と遺物を保管できる収蔵庫であり、2階は常設展示室で青銅器時代人の生活の様子と支石墓に関する学術資料に接することができ、3階は体験展示室で体験施設と竈穴住居セット、外部を眺望する望遠鏡が設置されています。

屋外展示は先史村、体験広場、展示庭園で構成されています。先史村は支石墓を築造した当時のムラを復元し支石墓時代の人々の生活を理解しやすく展示し、体験広場は支石墓の上石を引く体験を、展示庭園では甕棺墓、土壇墓、石棺墓など墓制の変遷史を知ることができます。

特に、支石墓専門の博物館ですので高敞の支石墓遺跡だけでなく世界遺産である和順・江華の支石墓遺跡に対する資料も知ることができます。韓国の世界遺産と世界の巨石文化など多様な学習資料を同時に見ることができる体験学習および教育の場として脚光を浴びています。

高敞支石墓博物館は人間が生まれて熾烈に生きて亡くなった後、支石墓に葬られるドラマチックで躍動的な人生を観覧できる場所であり、支石墓が墓という単純な死・埋葬空間ではなく歴史の息吹が今も聴こえる生の空間であるという真理を感じる時間旅行の旅先となります。 <http://www.gcdolmen.go.k> ☎ 063-560-2577~8

先史時代の 支石墓遺跡

古道に沿って密集分布する上金里支石墓

全羅北道高敞郡大山面上金里 373



・上金里支石墓 全景



・上金里の碁盤式支石墓



・上金里支石墓上石の採石穴

上金里は大山面から東に長く伸び、北は星松面と南側は靈光郡大馬面城山里の低い丘陵と接しています。上金村の亭子木の周辺から長城郡三溪面に向かう標高225mのカリ峠の頂上まで小さな道があり、そこから約2.7kmのカリ峠頂上まで約205基の支石墓が分布しています。この道は法聖浦から長城内陸を

結ぶ主要交通路で、支石墓が古道に沿って分布する特徴を持っています。

上石の大きさは長軸が200~400cmになる中形が大部分であり、600cmになる大型の上石も発見されています。支石が確認されたものは73基、塊石形支石を持つものは32基、柱形支石を持つものは18基あります。したがって、上金里支石墓は碁盤式が主流をなしています。そして、変形卓子式も8基確認されました。このような変形卓子式の中には下部が埋没し正確な様相が分からないものもありますが、卓子式と判断されるものもあり変形卓子式と碁盤式が結合した例もあります。また、石室の上

のように上金里支石墓は独特な分布的特徴と共に多様な形式が確認され、高敞邑竹林里の世界遺産である高敞支石墓遺跡と共に高敞地域の代表的な支石墓遺跡であります。

韓国最大として知られている雲谷里支石墓

全羅北道高敞郡雅山面雲谷里山 71-3

雲谷里支石墓は雅山面にある禅雲レークゴルフクラブから734番地方道に沿って南に約1.6km行くと雲谷村に向かう狭い道があり、この道に沿って雲谷堤を経ると雲谷書院に出ます。支石墓は雲谷書院の周辺に4基分布しています。

韓国で最大の雲谷支石墓という標石が立てられた雲谷支石墓は長さ550cm、幅450cm、高さ400cmの上石で約300トンの巨大な支石墓です。牙山ダム建設工事の一環で調査された支石墓で本来は茂った松林に埋まっており、支石がなければ巨大な岩に見える支石墓です。上石の下には長さ120cm、幅80cm、高さ43cmの支石が

南側に2個あり、北の支石は地中に埋まったものと推定されています。



・発掘された雲谷里支石墓(C-2号)



・雲谷里支石墓 全景



・雲谷里支石墓の支石

祭壇として使われた山水里支石墓



・丘陵に単独で立地する山水里支石墓

全羅北道高敞郡星松面山水里544

山水里支石墓は山水村に入る進入路から防築堤を過ぎ隣接した丘陵に基盤式支石墓1基が単独で立地します。上石の大きさは長さ600×幅320×厚さ130cmで支石の形態は柱形で高敞地域では珍しい形態です。5個の柱形支石が上石を支えており、低丘陵に単独に築造されている点から墓というよりは祭祀を執り行った祭壇として使われた可能性が高いと考えられます。

全羅北道記念物第111号に指定されています。



・山水里支石墓の支石



・山水里支石墓 近景

歴史時代の文化遺跡

馬韓王の墓と推定される鳳德里古墳群

全北高敞郡雅山面鳳德里山 47

鳳德里古墳群は遺跡の南側にある泰峰(海拔110.4m)から北西方に伸びる丘陵頂上部から末端部に至り、万洞村の西方に2基、後洞村の北方に2基の計4基の大型墳丘墓が位置しています。墳丘の形態は全体的に長方形を呈し、規模は44~46m前後、短幅29m、高さ9m前後です。

高敞郡では鳳徳古墳に対する整備復元を計画し、1号墳が円光大学校馬韓百濟文化研究所によって2008年と2009年の2度にわたって発掘調査されました。調査の結果、墳丘頂上から5基の石築墳が発見され、周辺からは甕棺墓2基、石槨9基が確認されました。4号横穴式石室墳から金銅飾履、金製耳飾、竹葉形装飾、中国製青磁盤口壺、大刀、刀子、馬具類、鉄器類、盛矢具などの遺物が出土し、馬韓の中心勢力の1つである‘牟盧卑離国’と関連があるものと推定されます。この古墳の築造時期は石築墓の構造や出土遺物から5世紀初葉と推定されています。



・鳳德里古墳群 全景

牟陽城と呼ばれる高敞邑城と百済の西山山城

高敞邑城



・高敞邑城 全景

全羅北道高敞郡高敞邑内里 126

高敞邑城は朝鮮端宗(1453)代に倭の侵入を防ぐために作られた石城で、高敞の方丈山を取り囲んでおり、羅州鎮管の立岩山城と連携して湖南内陸を防御する前哨基地として高く評価されています。城の規模は城壁周囲1684m、高さ4~6m、面積16万5,858㎡で、登陽楼(東門)、鎮西楼(西門)、拱北楼(北門)などの楼閣と6ヶ所の雉、3ヶ所の甕城、水口門2ヶ所が残っています。

牟陽城とも呼ばれますが、これは百済時代の高敞地域が‘毛良夫里’と呼ばれたことに由来すると言います。婦女子たちによって築城されたという伝説があり、これと関連する踏城ノリが韓国で唯一受け継がれています。毎年旧暦9月9日(重陽)を前後して牟陽城祭が開かれて、一年の災いや疾病が治るよう祈る踏城ノリが行われます。女性たちが手の平ほどの石を頭に載せて城を一周すれば足の病が治り、二周すれば無病長寿、三周すれば極楽昇天するという伝説があります。

西山山城



・西山山城(点線部分が山城)

全羅北道高敞郡雅山面鳳德里山1

西山山城は世界遺産である高敞支石墓遺跡の近くソクチドン村の裏手にある山、ソントゥル峰に位置し、東・西・南側に河川があり海拔20m以下の低い地帯を見下ろす場所に築城されています。自然石を利用して積んだ山頂式石城で、南側は比較的小さな石を、北側はこれより大きい石を積んでいます。城壁は南266m、東142m、北322m程度で全周は730mになり、高さは約3m前後です。

現在も住民たちの間では高敞邑城は婦女子たちが城を築き、西山山城は男たちが築城することで勝負し、女性たちの築いた高敞邑城が勝ったという伝説があります。

兜率山に位置する禅雲寺

全羅北道高敞郡雅山面三仁里 500



・禅雲寺 全景

禅雲寺は別名兜率山とも呼ばれる禅雲山の北麓に位置しています。577年(百濟威徳王24)に高僧検旦(黔丹)によって創建され、その後1354年に孝正が重修し、1472年(成宗3)から10余年にわたって克乳が重創したのを含め数度の重修を経て今日に至ります。

禅雲寺からは傑出した高僧大徳が多く輩出されました。朝

鮮後期の華嚴学の発展に大きい足跡を残した雪坡尚彦と禅門の中興柱と崇められる白坡亘琬をはじめとして、旧韓末の幻応坦泳、近代仏教の先駆者である朴漢永たちが禅雲寺で修行し当代の仏教を導きました。現存する殿閣は大雄宝殿と観音殿・靈山殿・捌相殿・冥府殿・山神閣・万歳楼・天王門があり、大雄宝殿の前には6層石塔と掛仏台・幢竿支柱・石柱があり、山の中の庵には懺堂庵・兜率庵・東雲庵・石上庵があります。

禅雲寺大雄宝殿は宝物第290号に指定されています。また、靈山殿木造三尊仏像・6層石塔・梵鍾・万歳楼・白坡律師碑などが地方文化財に登録されており、これ以外にも寺域内にある禅雲寺聖宝博物館には金銅地藏菩薩坐像(宝物279号)をはじめ高麗仏像、朝鮮時代の幀画、『釈氏源流』、『禅雲寺史蹟記』などの文化財が展示されており、境内の椿林・長沙松・キヅタは天然記念物に指定されています。

緑豆將軍全琫準の生家

全羅北道高敞郡高敞邑竹林里 65

東学農民革命のリーダーであった全琫準將軍の生家でダンチョン村の民家の間にあります。全琫準は1856年1月10日(旧暦1855年12月3日)ダンチョン村(高敞竹林里)で書堂訓長であった全彰赫の息子として生まれ、13歳頃まで暮したと言います。彼は体格が小さかったことから緑豆



・全琫準 生家 全景

と呼ばれ、後に緑豆將軍というニックネームが付いたと言われています。

緑豆將軍全琫準は1892年、古阜郡守である趙秉甲が万石状(貯水池)を築造するという理由で農民たちの金銭と穀物を強奪すると、農民代表と共に正しい政治をしてくれるように訴えたが拒否され、1894年1月に農民と東学教徒たちを率いて腐敗した官吏を監禁しました。その後、全州に入城して外侵によって国が危うくなるため腐敗した官吏の処罰、奴婢解放など弊政改革案12ヶ条目を実践することが約束され落ち着きました。しかし、約束が実行されず、日清戦争に勝利した日本が韓国に侵略の手を伸ばすと、12万名の兵士を指揮して孫秉熙の軍10万人と共に日本軍に対抗して戦いました。東学農民軍は中・南部全地域と咸鏡南道、平安南道まで勢力を伸ばしましたが公州、金溝の戦いで敗れ、全琫準將軍は淳昌で潜伏、再起を図りましたが捕まり、1895年3月に処刑されました。

緑豆將軍全琫準の生家は書堂と母屋、居間がありましたが東学農民革命の期間に全てなくなりました。現在は母屋1棟と物置1棟の2棟の建物が復元され、母屋は正面2間、側面5間の藁葺き屋根で典型的な庶民の家屋の形態です。

朝鮮時代の邑城の構造が分かる 茂長県官衙と邑城



・茂長県官衙と邑城の鎮茂楼 全景

全羅北道高敞郡茂長面城内里 149-1

茂長県官衙と邑城は茂松県と長沙県が統合され、その中間地点に治所を定め築造したものが現在の高敞郡茂長面城内里に該当します。築造時期は1417年で兵馬使である金著来が多くの子の僧侶と壮丁20,000人を動員して2月から5月の間に築造し、公衙官舎を建てたと茂長邑誌が伝えており、1894年に起きた東学農民革命の最初の蜂起場所でもあります。邑城は長さ約1.2km、高さ約1~2m、幅は上部約1~2m、下部約3~5mの長方形平地城です。ほぼ完形に近い南門(鎮茂楼)と東門址(甕城址)を含め大部分残っていますが、南門の左右の一部(約230m)のみが毀損しなくなりました。南門の周囲に石垣が残っており、また、東門址の土城断面内部に列石が見られますが、これは土城に改築する以前の石城のものと考えられます。この他に客舎と東軒、城郭と壕字が共に残っており、郷庁・椽庁・内衙と城隍堂・社稷壇・厲壇などが残っており、朝鮮時代の邑城を研究するうえで重要な資料とされています。1991年2月史蹟第346号に指定されました。



・茂長県官衙と邑城内の茂長客舎 全景

参/考/文/献

[支石墓関連書籍]

- 이건무·조현중, 2000, 『선사유물과 유적』
- 이영문, 2001, 『고인돌이야기』 다지리
- 변광현, 2001, 『고인돌과 거석문화』 미리내
- 문화재청, 2002, 『한국의 세계유산』
- 이영문, 2002, 『한국지석묘사회연구』 학연문화사
- 유태용, 2003, 『한국 지석묘연구』 주류성
- 이영문, 2004, 『세계문화유산 화순고인돌』 (재)동북아지석묘연구소
- 동북아지석묘연구소, 2004, 『세계거석문화와 고인돌』
- 이영문·신경숙, 2005, 『화순고인돌 사람들 이야기』 (재)동북아지석묘연구소, 화순군
- 동북아지석묘연구소, 2007, 『아시아거석문화와 고인돌』
- 우장문·김영창, 2008, 『세계유산 강화고인돌』 고인돌사랑회
- 호남문화재연구원, 2008, 『문화유산 보존과 활용』

[高敞支石墓関連報告書]

- 김재원·윤무병, 1967, 『한국지석묘연구』, 국립박물관
- 전북대학교박물관, 1984, 『고창지방문화재지표조사보고서』
- 전영래, 1992, 『고창, 죽림리일대지석묘군지표조사보고서』, 고창군, 원광대마한백제문화연구소
- 전영래, 1993, 『고창, 죽림리지석묘군발굴보고서』, 고창군, 원광대마한백제문화연구소
- 고창군, 1995, 『고창고인돌유적 -보존과 활용방안 연구』, 사단법인 지역발전연구소
- 전주대학교박물관, 1999, 『고창지석묘군 상석채굴지 지표조사보고서』, 고창군
- 원광대학교 마한백제문화연구소, 2000, 『서해안 고속도로(고창~군산간) 건설구간 내 문화유적 발굴·조사』, 고창군
- 호남문화재연구원, 2001, 『사적 391호 고창고인돌유적지표조사보고서』, 고창군
- 고창군, 2005, 『문화유적분포지도』, 고창군, 원광대마한백제연구소
- 원광대학교박물관, 2007, 『고창, 죽림리 재해 고인돌 발굴조사 보고서』, 고창군
- 군산대학교박물관, 2009, 『고창군의 지석묘』, 고창군

[支石墓関連ホームページ]

- 文化財庁 www.cha.go.kr
- 유네스코한국위원회 www.unesco.or.kr
- 高敞支石墓博物館 www.gcdolmen.go.kr
- 東北亜支石墓研究所 www.idolmen.org
- 支石墓サラン会 www.igoidol.net